

基礎調査結果の概要

第 1 章 高齢者保健福祉計画・介護計画のための実態調査

1 調査の概要

(1) 調査の目的

「第 8 次宇都宮市高齢者保健福祉計画・第 7 期宇都宮市介護保険事業計画（対象期間：平成 30 年度から平成 32 年度まで）」の策定にあたり、高齢者やこれから高齢期を向える者等の生活実態、意識・意向、介護サービス事業者の運営状況等を把握するために、調査を実施しました。

(2) 調査の内容

ア 高齢者一般調査

調査対象	平成 29 年 1 月 31 日現在、市内在住の要支援・要介護認定者を除く 65 歳以上の者 5,000 人
調査期間	平成 29 年 3 月 17 日～3 月 27 日
調査方法	郵送配布、郵送回収

イ 若年者調査

調査対象	平成 29 年 1 月 31 日現在、市内在住の 40 歳以上 64 歳以下の者 3,000 人
調査期間	平成 29 年 3 月 17 日～3 月 27 日
調査方法	郵送配布、郵送回収

ウ 在宅介護実態調査

調査対象	平成 29 年 1 月 31 日現在、市内在住の要支援認定者 1,000 人及び要介護認定者 1,000 人
調査期間	平成 29 年 3 月 17 日～3 月 27 日
調査方法	郵送配布、郵送回収

(3) 調査票の配布及び回答状況

調査名	対象者等数	回収数	回収率
ア 高齢者一般調査	5,000 人	2,976 人	59.5%
イ 若年者調査	3,000 人	1,162 人	38.7%
ウ 在宅介護実態調査	2,000 人	1,226 人	61.3%

2 高齢者一般調査／若年者調査結果

(1) 生活状況

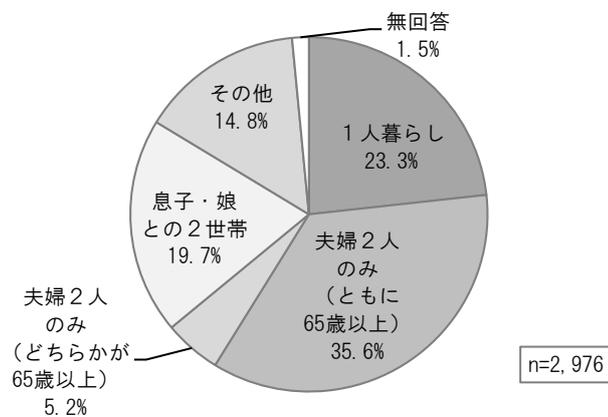
ア 家族構成

高齢者

家族構成については、「夫婦2人のみ（ともに65歳以上）」（35.6%）が最も高く、次いで「1人暮らし」（23.3%）、「息子・娘との2世帯」（19.7%）となっています。

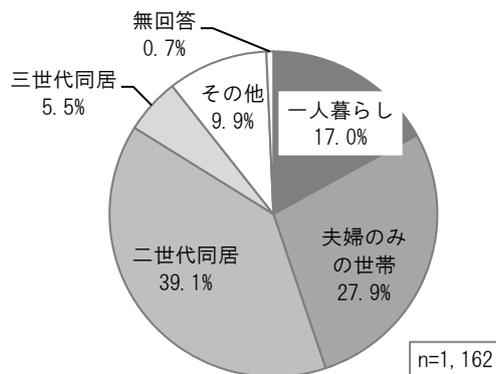
性別にみると、男性では「夫婦2人のみ（ともに65歳以上）」（44.3%）が最も高く、女性では「1人暮らし」（31.8%）が最も高くなっています。

年齢階級別にみると、65～84歳では「夫婦2人のみ（ともに65歳以上）」が最も高く、80歳以上では「息子・娘との2世帯」が20%を超え、加齢とともに上昇しています。



若年者

家族構成については、「二世代同居」（39.1%）が最も高く、次いで「夫婦のみの世帯」（27.9%）、「一人暮らし」（17.0%）となっています。



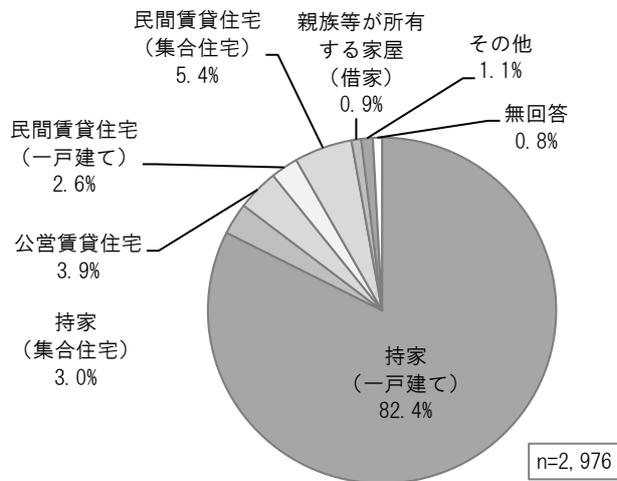
イ 居住形態

高齢者

住まいの形態については、「持家（一戸建て）」（82.4%）が最も高く、次いで「民間賃貸住宅（集合住宅）」（5.4%）、「公営賃貸住宅（集合住宅）」（3.9%）となっています。

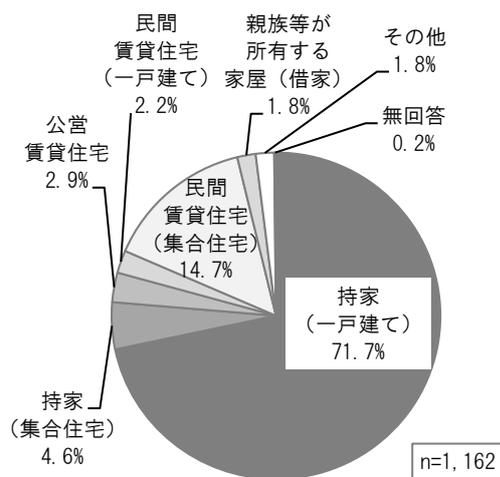
性別・年齢階級別にみると、「持家（一戸建て）」がいずれも80%を超えています。

家族構成別にみると、1人暮らしは「持家（一戸建て）」（60.8%）で他より低く、「民間賃貸住宅（集合住宅）」（14.5%）や「公営賃貸住宅」（11.3%）が、いずれも10%を超えています。



若年者

住まいの形態については、「持家（一戸建て）」（71.7%）が最も高く、次いで「民間賃貸住宅（集合住宅）」（14.7%）となっています。



ウ 職業

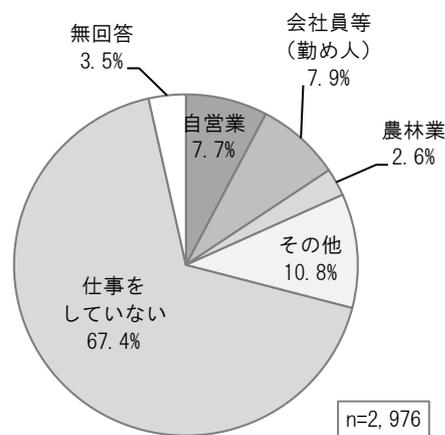
高齢者

職業については、「会社員等（勤め人）」が7.9%、「自営業」が7.7%、「農林業」が2.6%となっています。また、「仕事をしていない」は67.4%となっています。

性別にみると、男性の有職者（「自営業」「会社員等（勤め人）」「農林業」「その他」の合計）は32.6%で、女性（25.3%）を上回っています。

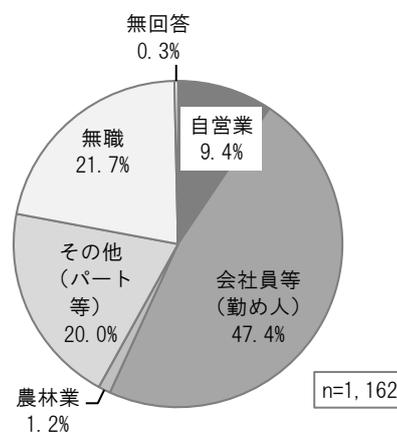
年齢階級別にみると、65～69歳の有職者（44.6%）が最も高く、加齢とともに低下しています。

家族構成別にみると、有職者は夫婦2人暮らし（どちらかが65歳以上）（42.9%）が最も高く、息子・娘との2世帯では30.7%、夫婦2人暮らし（ともに65歳以上）では29.8%、1人暮らしでは22.3%となっています。



若年者

現在の職業については、「会社員等（勤め人）」（47.4%）が最も高く、次いで「無職」（21.7%）となっています。



(2) 生きがい

ア 「生きがい」を感じている程度

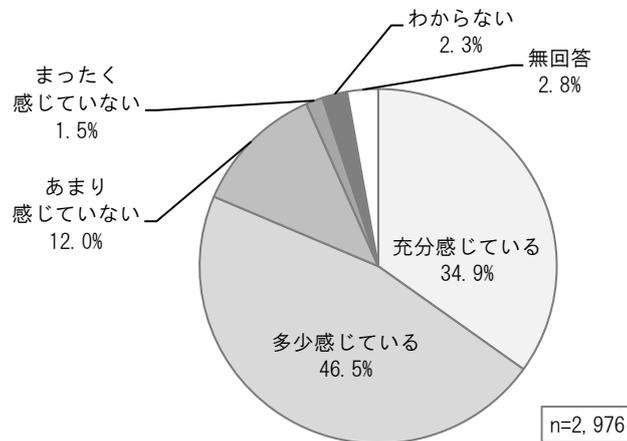
高齢者

生きがいを「多少感じている」(46.5%)が最も高く、次いで「充分感じている」(34.9%)となっています。また、「充分感じている」「多少感じている」の合計(81.4%)は、「あまり感じていない」「まったく感じていない」の合計(13.5%)を上回っています。

性別にみると、「あまり感じていない」「まったく感じていない」の合計は、男性(14.5%)が女性(12.5%)を上回っています。

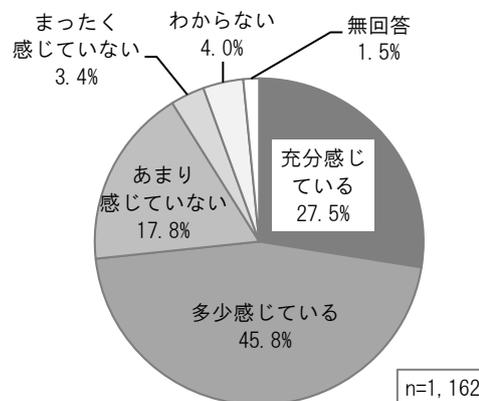
年齢階級別にみると、「あまり感じていない」「まったく感じていない」の合計は、65～69歳(16.3%)が90歳以上(18.3%)に次いで高く、15%を超えています。

家族構成別にみると、「あまり感じていない」「まったく感じていない」の合計は、1人暮らし(19.9%)が最も高く、次いで夫婦2人暮らし(どちらかが65歳以上)(15.6%)となっています。



若年者

生きがいについて、「多少感じている」(45.8%)が最も高く、次いで「充分感じている」(27.5%)となっています。



イ 「生きがい」を感じること

(①で「充分感じている」「多少感じている」と回答した方、複数回答可)

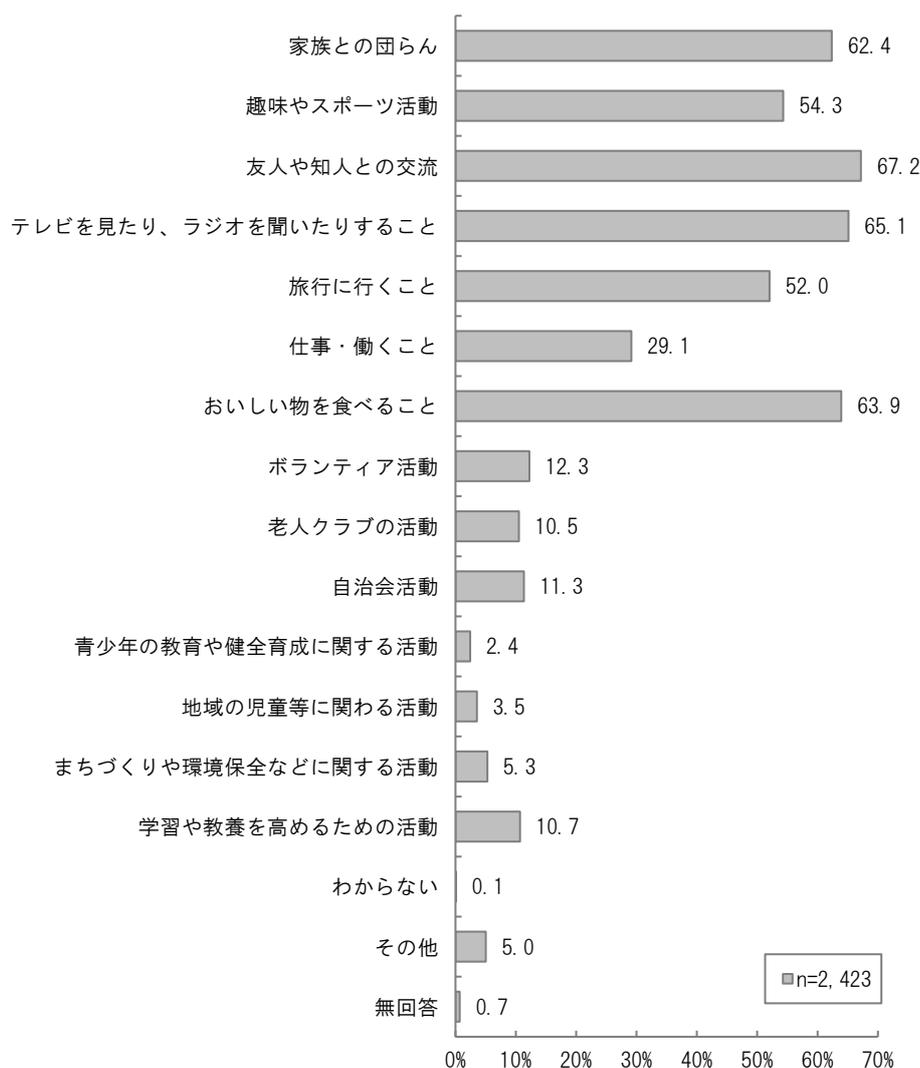
高齢者

生きがいを感じることは、「友人や知人との交流」(67.2%)が最も高く、次いで「テレビを見たり、ラジオを聞いたりすること」(65.1%)、「おいしい物を食べること」(63.9%)、「家族との団らん」(62.4%)となっています。

性別にみると、男性では「家族との団らん」(63.6%)、女性では「友人や知人との交流」(74.9%)が最も高くなっています。

年齢階級別にみると、「テレビを見たり、ラジオを聞いたりすること」は70歳以上で60%を超え、「趣味やスポーツ活動」は65歳以上から、「旅行に行くこと」は70歳以上から、加齢とともに低下しています。

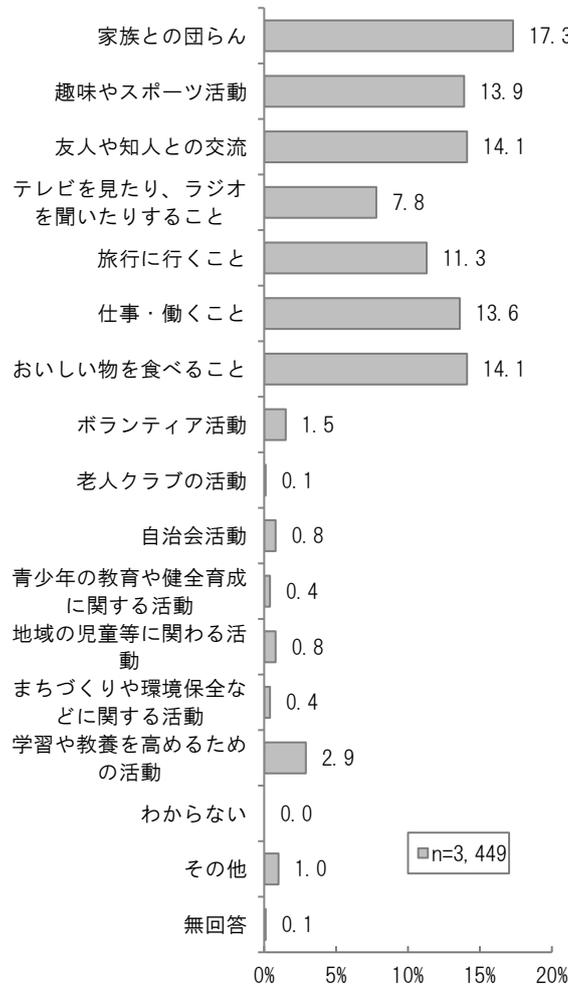
家族構成別にみると、「趣味やスポーツ活動」は夫婦2人暮らし(どちらかが65歳以上)(69.1%)で最も高くなっています。



若年者

生きがいを感じることは、「家族との団らん」(17.8%)が最も高く、次いで「友人や知人との交流」(14.1%)、「おいしい物を食べること」(14.1%)、「趣味やスポーツ活動」(13.9%)、「仕事・働くこと」(13.6%)となっています。

なお、「その他」としては「子育て、子どもや孫の成長」「趣味のこと」などの回答がありました。



ウ 今後「生きがい」にしたいこと（複数回答可）

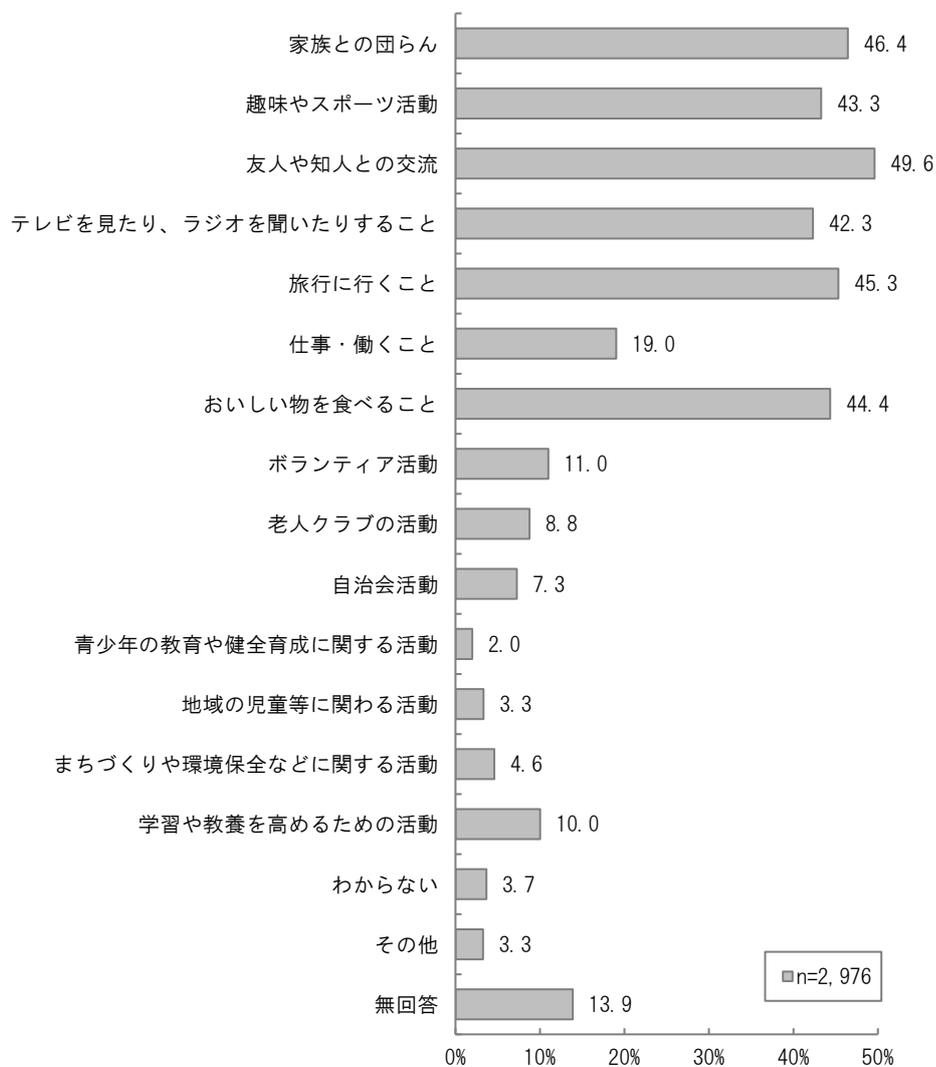
高齢者

今後生きがいにしたいことについては、「友人や知人との交流」（49.6%）が最も高く、次いで「家族との団らん」（46.4%）、「旅行に行くこと」（45.3%）、「おいしい物を食べること」（44.4%）となっています。

性別にみると、男性では「趣味やスポーツ活動」（47.2%）、女性では「友人や知人との交流」（57.1%）が最も高くなっています。

年齢階級別にみると、「テレビを見たり、ラジオを聞いたりすること」は80歳以上で50%を超え、「趣味やスポーツ活動」は65歳以上から、「旅行に行くこと」は70歳以上から、「友人や知人との交流」は75歳以上から、加齢とともに低下しています。

家族構成別にみると、「旅行に行くこと」「趣味やスポーツ活動」は夫婦2人暮らし（ともに65歳以上）及び夫婦2人暮らし（どちらかが65歳以上）で、「友人や知人との交流」は夫婦2人暮らし（ともに65歳以上）で、50%を超えています。

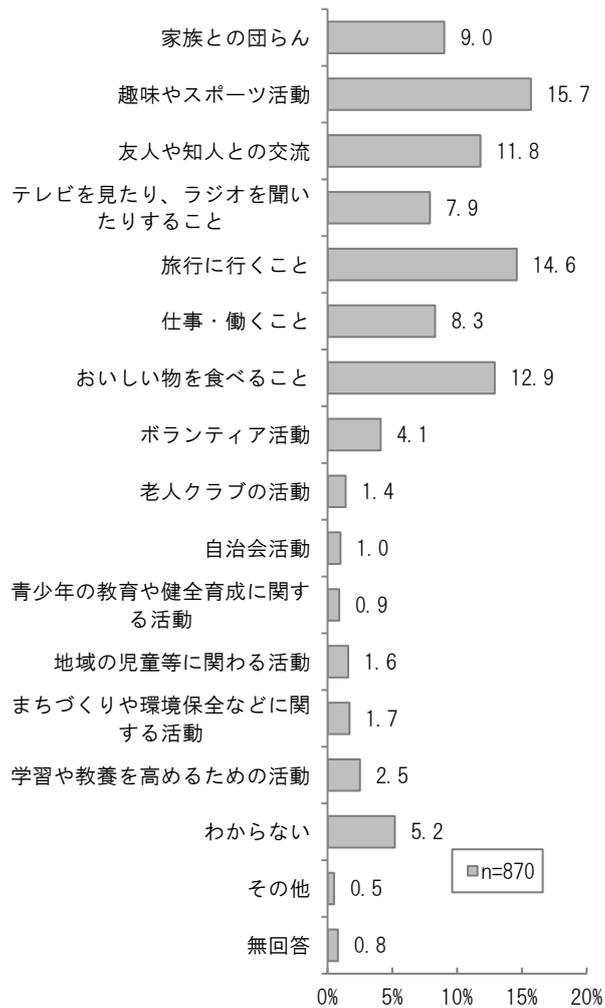


若年者

①で「あまり感じていない」「まったく感じていない」「わからない」と回答した方

高齢者になったとき、生きがいにしたいことについては、「趣味やスポーツ活動」(15.7%)が最も高く、次いで「旅行に行くこと」(14.6%)、「おいしい物を食べること」(12.9%)、「友人や知人との交流」(11.8%)となっています。

なお、「その他」としては「介護の程度やそのときの状況による」などの回答がありました。



(3) 地域での活動について

ア グループ活動や社会活動等への参加状況

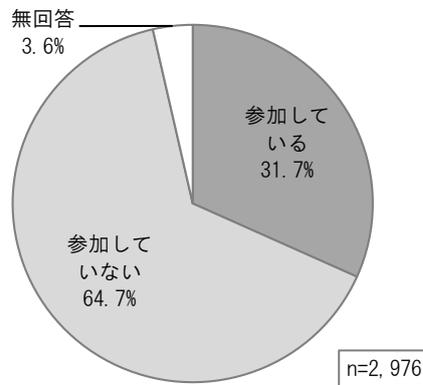
高齢者

グループ活動や社会活動に「参加している」が31.7%、「参加していない」が64.7%となっています。

性別にみると、「参加している」は、女性（34.7%）が男性（29.0%）を上回っています。

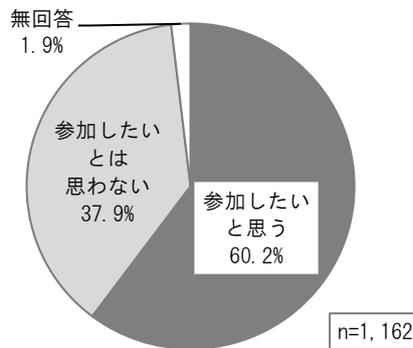
年齢階級別にみると、「参加している」は、75～79歳（40.6%）で40%を超え、最も高くなっています。次いで80～84歳（34.0%）、70～74歳（32.3%）となっています。

家族構成別にみると、「参加している」は、息子・娘との2世帯（33.7%）が最も高く、次いで夫婦2人暮らし（ともに65歳以上）（33.3%）となっています。



若年者

高齢者になったときのグループ活動や社会活動等への参加意向については、「参加したいと思う」（60.2%）が「参加したいとは思わない」（37.9%）を上回っています。



イ グループ活動の内容と参加頻度

ウ 社会活動の内容と参加頻度

(①で「参加している」と回答した方のみ)

高齢者

参加するグループ活動について、「参加している」(「週4回以上」「週2～3回」「週1回」「月1～3回」「年に数回」の合計)をみると、「趣味関係のグループ」(52.2%)が最も高く、次いで「スポーツ関係のグループやクラブ」(43.5%)、「町内会・自治会」(30.1%)となっています。

参加する社会活動については、「地域の生活環境の改善(美化)活動」(26.7%)が最も高く、次いで「見守りが必要な高齢者を支援する活動」(13.1%)となっています。

グループ活動等の参加頻度(単位:上段人 下段:%)

n=944	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	無回答	合計
①ボランティアのグループ	19 2.0	34 3.6	28 3.0	112 11.9	86 9.1	665 70.4	944 100.0
②スポーツ関係のグループやクラブ	61 6.5	132 14.0	82 8.7	101 10.7	35 3.7	533 56.5	944 100.0
③趣味関係のグループ	30 3.2	102 10.8	90 9.5	216 22.9	55 5.8	451 47.8	944 100.0
④学習・教養サークル	3 0.3	10 1.1	31 3.3	83 8.8	36 3.8	781 82.7	944 100.0
⑤老人クラブ	6 0.6	33 3.5	27 2.9	78 8.3	72 7.6	728 77.1	944 100.0
⑥町内会・自治会	11 1.2	23 2.4	17 1.8	96 10.2	137 14.5	660 69.9	944 100.0
⑦収入のある仕事	35 3.7	32 3.4	12 1.3	15 1.6	20 2.1	830 87.9	944 100.0
⑧その他のグループ活動	4 0.4	7 0.7	8 0.8	42 4.4	24 2.5	859 91.0	944 100.0

社会活動等の参加頻度(単位:上段人 下段:%)

n=944	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	無回答	合計
①見守りが必要な高齢者を支援する活動	6 0.6	11 1.2	16 1.7	41 4.3	50 5.3	820 86.9	944 100.0
②介護が必要な高齢者を支援する活動	7 0.7	10 1.1	11 1.2	19 2.0	33 3.5	864 91.5	944 100.0
③子どもを育てている親を支援する活動	5 0.5	5 0.5	12 1.3	19 2.0	28 3.0	875 92.7	944 100.0
④地域の生活環境の改善(美化)活動	8 0.8	7 0.7	16 1.7	66 7.0	155 16.4	692 73.3	944 100.0
⑤その他の社会活動	18 1.9	27 2.9	36 3.8	89 9.4	83 8.8	691 73.2	944 100.0

エ グループ活動や社会活動に取り組むときや、今後取り組もうとしたときに希望する支援（複数回答可）

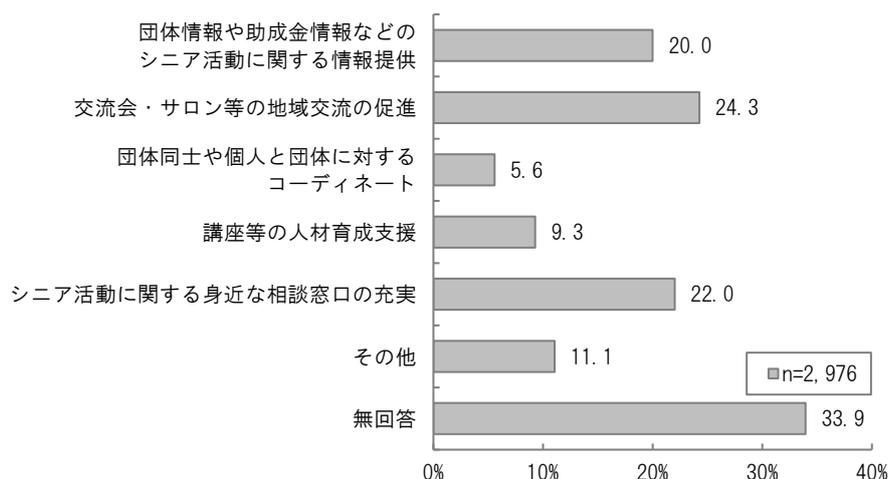
高齢者

グループ活動や社会活動等参加の際に希望する支援については、「交流会・サロン等の地域交流の促進」(24.3%)が最も高く、次いで「シニア活動に関する身近な相談窓口の充実」(22.0%)、「団体情報や助成金情報などのシニア活動に関する情報提供」(20.0%)となっています。

性別にみると、男性では「団体情報や助成金情報などのシニア活動に関する情報提供」(23.7%)、女性では「交流会・サロン等の地域交流の促進」が最も高くなっています。

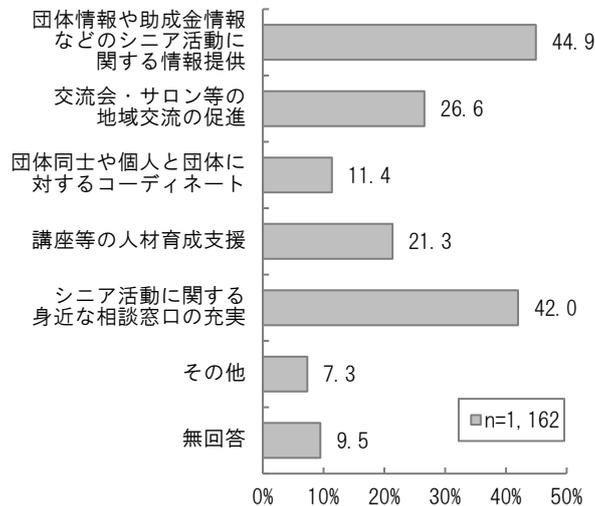
年齢階級別にみると、65～69歳では「団体情報や助成金情報などのシニア活動に関する情報提供」(28.5%)、70歳以上では「交流会・サロン等の地域交流の促進」が最も高くなっています。

家族構成別にみると、夫婦2人暮らし（どちらかが65歳以上）では「団体情報や助成金情報などのシニア活動に関する情報提供」(31.8%)、1人暮らし、夫婦2人暮らし（ともに65歳以上）、息子・娘との2世帯では「交流会・サロン等の地域交流の促進」が最も高くなっています。



若年者

高齢者になったときのグループ活動や社会活動等参加の際に希望する支援については、「団体情報や助成金情報などのシニア活動に関する情報」（44.9％）が最も高く、次いで「シニア活動に関する身近な相談窓口の充実」（42.0％）、「交流会・サロン等の地域交流の促進」（26.6％）となっています。



オ 参加者としてグループ活動等に参加してみたいか（複数回答可）

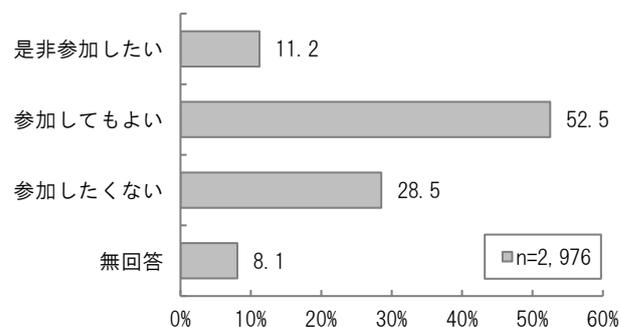
高齢者

市全体では、参加者として「是非参加したい」は11.2％、「参加してもよい」は52.5％で、63.7％が参加の意思があると回答しています。

性別にみると、「是非参加したい」は女性（12.2％）が男性（10.3％）を上回り、「参加してもよい」のは男性（55.3％）が女性（50.0％）を上回っています。

年齢階級別にみると、「是非参加したい」は75～79歳（13.2％）、「参加してもよい」は65～69歳（58.5％）が最も高くなっています。

家族構成別にみると、「是非参加したい」は夫婦2人暮らし（どちらかが65歳以上）（14.3％）、「参加してもよい」は夫婦2人暮らし（ともに65歳以上）（57.8％）が最も高くなっています。



カ 地域でできる支援の内容（複数回答可）

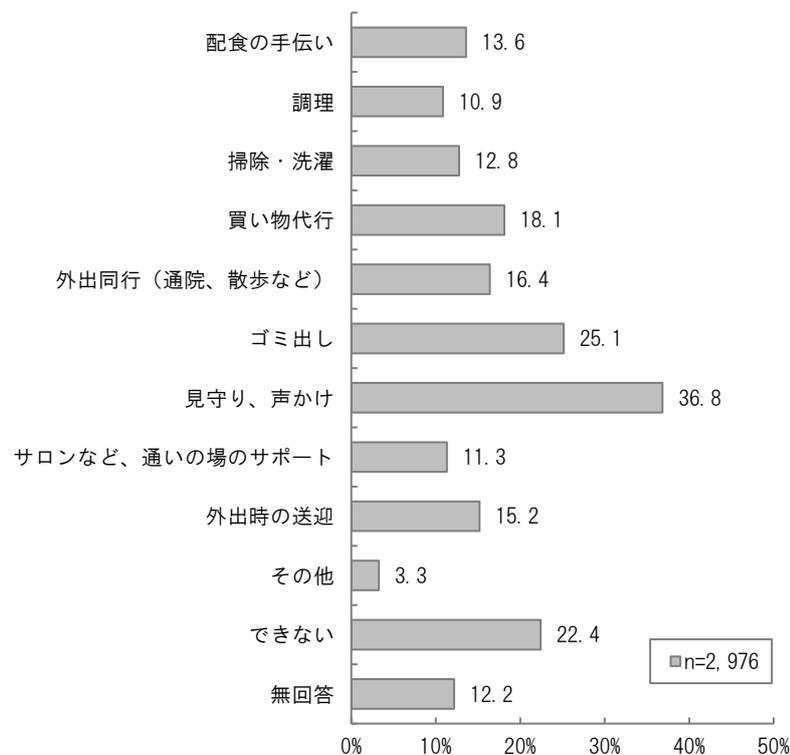
高齢者

市全体では「見守り、声かけ」（36.8%）が最も高く、次いで「ゴミ出し」（25.1%）、「買い物代行」（18.1%）となっています。

性別にみると、男性では「外出時の送迎」（22.8%）が、女性（7.2%）を上回っています。

年齢階級別にみると、上位5位については65～69歳で最も高く、加齢とともに低下しています。

家族構成別にみると、夫婦2人暮らし（どちらかが65歳以上）では「外出時の送迎」（31.2%）、「ゴミ出し」（27.9%）、「外出同行（通院、散歩など）」（26.6%）、「買い物代行」（21.4%）、夫婦2人暮らし（ともに65歳以上）では「見守り、声かけ」（42.3%）が、他よりも高くなっています。



キ 地域・ボランティアの方にしてもらいたい支援の内容（複数回答可）

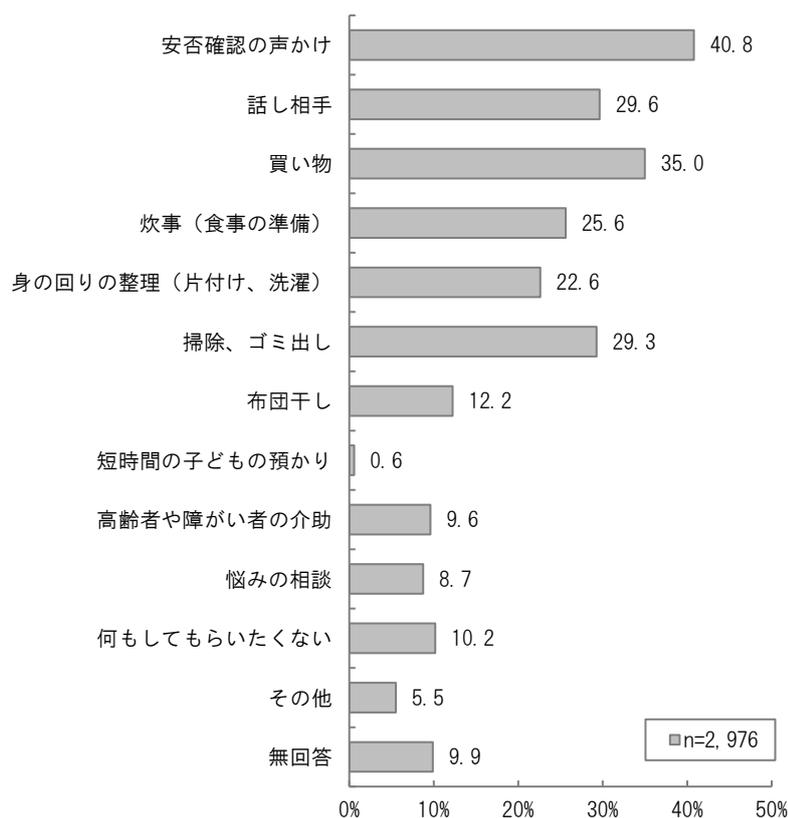
高齢者

市全体では「安否確認の声かけ」（40.8%）が最も高く、次いで「買い物」（35.0%）、「話し相手」（29.6%）、「掃除、ゴミ出し」（29.3%）となっています。

性別にみると、女性では「安否確認の声かけ」（42.1%）、「買い物」（38.0%）、「話し相手」（32.0%）、「掃除、ゴミ出し」（29.5%）で、男性を上回っています。

年齢階級別にみると、「安否確認の声かけ」では65～69歳（45.3%）、「買い物」（38.5%）、「掃除、ゴミ出し」（30.5%）、「炊事（食事の準備）」（29.7%）、「身の回りの整理（片付け、洗濯）」（26.0%）では70～74歳、「話し相手」では85～89歳（36.5%）が最も高くなっています。

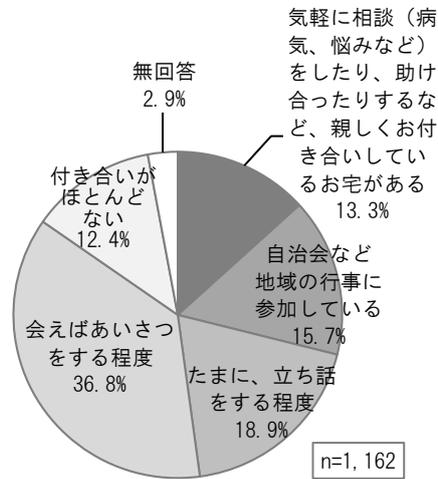
家族構成別にみると、「安否確認の声かけ」（46.3%）、「買い物」（39.5%）、「話し相手」（29.8%）では夫婦2人暮らし（ともに65歳以上）、「掃除、ゴミ出し」（34.4%）、「炊事（食事の準備）」（33.1%）、「身の回りの整理（片付け、洗濯）」（31.8%）では夫婦2人暮らし（どちらかが65歳以上）が最も高くなっています。



ク 近隣の人との交流の状況

若年者

近隣の人との交流については、「会えばあいさつをする程度」(36.8%)が最も高く、次いで「たまに立ち話をする程度」(18.9%)となっています。



(4) たすけあいについて

ア 家族や友人・知人以外何かあったときに相談する相手

(複数回答可)

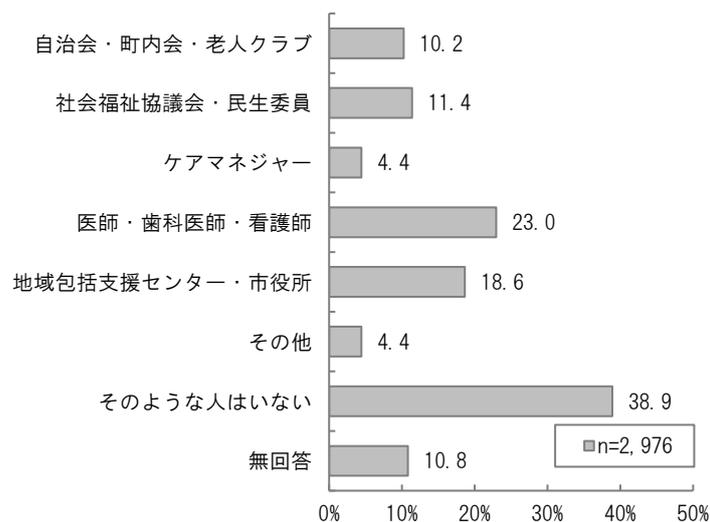
高齢者

家族や友人・知人以外で何かあったときに相談する相手は、「医師・歯科医師・看護師」(23.0%)が最も高く、次いで「地域包括支援センター・市役所」(18.6%)となっています。また、「そのような人はいない」は38.9%となっています。

性別にみると、「地域包括支援センター・市役所」では女性(21.0%)、男性(16.8%)、「自治会・町内会・老人クラブ」では男性(12.7%)、が女性(7.7%)を上回っています。

年齢階級別にみると、90歳以上を除く全ての年代で「医師・歯科医師・看護師」が最も高く、加齢とともに上昇しています。また、「そのような人はいない」は、65~69歳(50.5%)で50%を超えています。

家族構成別にみると、1人暮らしでは「地域包括支援センター・市役所」(19.4%)が、「医師・歯科医師・看護師」(19.2%)を上回っています。



イ 友人・知人と会う頻度

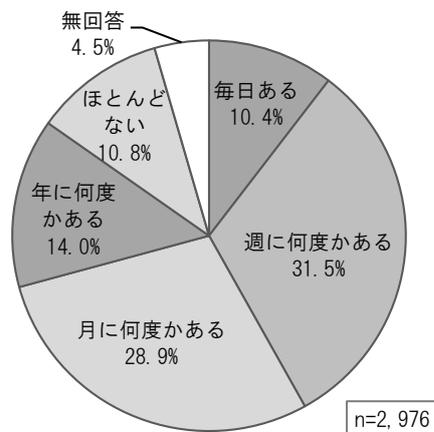
高齢者

友人・知人と会う頻度は、「週に何度かある」(31.5%)が最も高く、次いで「月に何度かある」(28.9%)となっています。また、「ほとんどない」は10.8%となっています。

性別にみると、「週に何度かある」は、女性(37.4%)が男性(26.3%)を上回り、「ほとんどない」は、男性(13.7%)が女性(7.7%)を上回っています。

年齢階級別にみると、70～84歳では「週に何度かある」、65～69歳及び85歳以上では「月に何度かある」が最も高くなっています。

家族構成別にみると、夫婦2人暮らし(どちらかが65歳以上)では「月に何度かある」(29.2%)が、「週に何度かある」(24.7%)を上回っています。



ウ 最近1か月間に会った友人・知人の人数

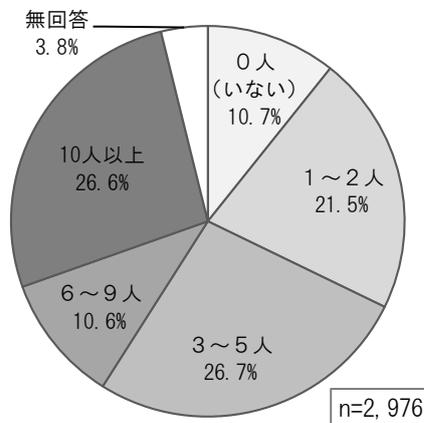
高齢者

最近1か月にあった友人・知人の数は、「3～5人」(26.7%)が最も高く、次いで「10人以上」(26.6%)、「1～2人」(21.5%)となっています。また、「0人(いない)」は10.7%となっています。

性別にみると、「3～5人」「6～9人」「10人以上」では、女性が男性を上回り、「0人(いない)」「1～2人」では、男性が女性を上回っています。

年齢階級別にみると、70～84歳では「10人以上」、65～69歳及び85歳以上では「3～5人」が最も高くなっています。

家族構成別にみると、夫婦2人暮らし(ともに65歳以上)及び息子・娘との2世帯では「10人以上」、1人暮らし及び夫婦2人暮らし(どちらかが65歳以上)では「3～5人」が最も高くなっています。



エ よく会う友人・知人との関係（複数回答可）

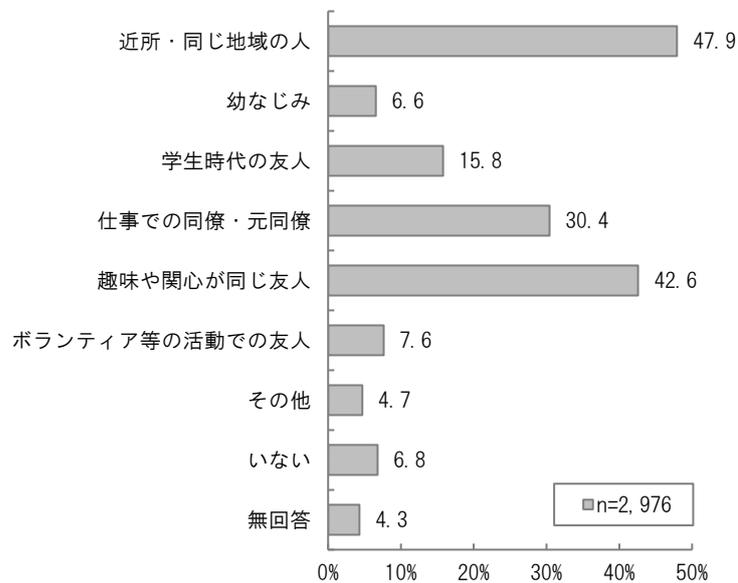
高齢者

よく会う友人・知人との関係は、「近所・同じ地域の人」（47.9%）が最も高く、次いで「趣味や関心が同じ友人」（42.6%）、「仕事での同僚・元同僚」（30.4%）となっています。また、「いない」は6.8%となっています。

性別にみると、男性では、「仕事での同僚・元同僚」（35.8%）が女性（24.8%）を上回っています。また、「いない」についても、男性（8.5%）が女性（5.0%）を上回っています。

年齢階級別にみると、「趣味や関心が同じ友人」は、65～79歳で40%を超えているものの、80歳以上では40%を下回っています。一方、「近所・同じ地域の人」は、75～79歳から50%を超え、80歳以上で加齢とともに上昇しています。

家族構成別にみると、息子・娘との2世帯では「近所・同じ地域の人」（54.5%）が50%を超え、他より高くなっています。また、夫婦2人暮らし（どちらかが65歳以上）では「仕事での同僚・元同僚」（46.8%）が最も高くなっています。



(5) 健康について

ア 現在の健康状態

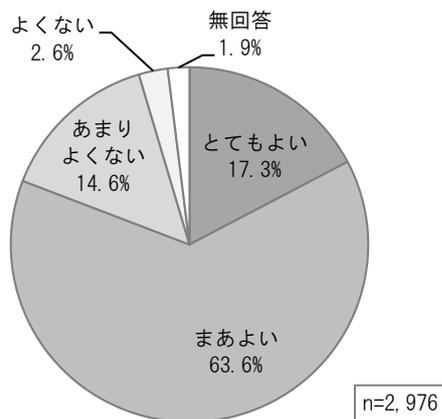
高齢者

現在の健康状態は「まあよい」(63.6%)が最も高く、次いで「とてもよい」(17.3%)、「あまりよくない」(14.6%)となっています。また、「とてもよい」「まあよい」の合計は80.9%、「あまりよくない」「よくない」の合計は17.2%となっています。

性別にみると、「とてもよい」「まあよい」の合計は、女性(82.6%)が男性(79.2%)を上回っています。

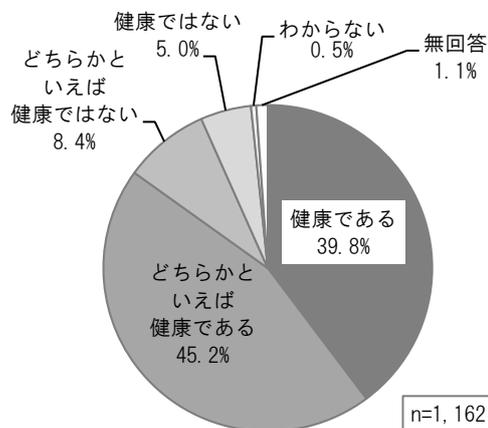
年齢階級別にみると、「とてもよい」「まあよい」の合計は、65～69歳(84.5%)が最も高く、加齢とともに低下しています。

家族構成別にみると、「とてもよい」「まあよい」の合計は、夫婦2人暮らし(ともに65歳以上)(83.6%)が最も高く、夫婦2人暮らし(どちらかが65歳以上)(81.8%)となっています。



若年者

現在の健康状態については、「どちらかといえば健康である」(45.2%)が最も高く、次いで「健康である」(39.8%)となっています。



イ 現在治療中、または後遺症のある病気（複数回答可）

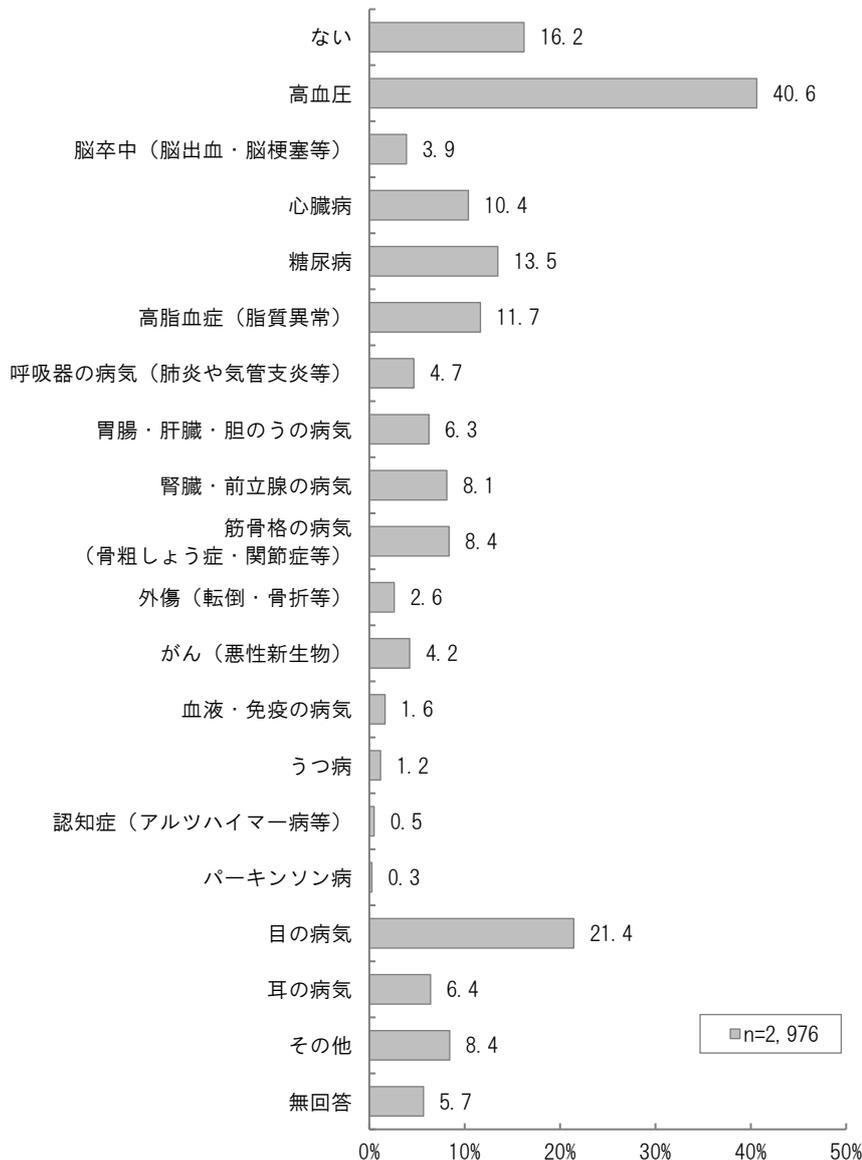
高齢者

現在治療有、または後遺症のある病気は「高血圧」（40.6%）が最も高く、次いで「目の病気」（21.4%）、「糖尿病」（13.5%）となっています。また、「ない」は16.2%となっています。

市全体で10%以上の回答があったものについて、性別にみると、男性では「高血圧」（43.2%）、「糖尿病」（17.0%）、「心臓病」（13.3%）で女性を上回り、女性では「目の病気」（24.3%）、「高脂血症（脂質異常）」（14.5%）で男性を上回っています。

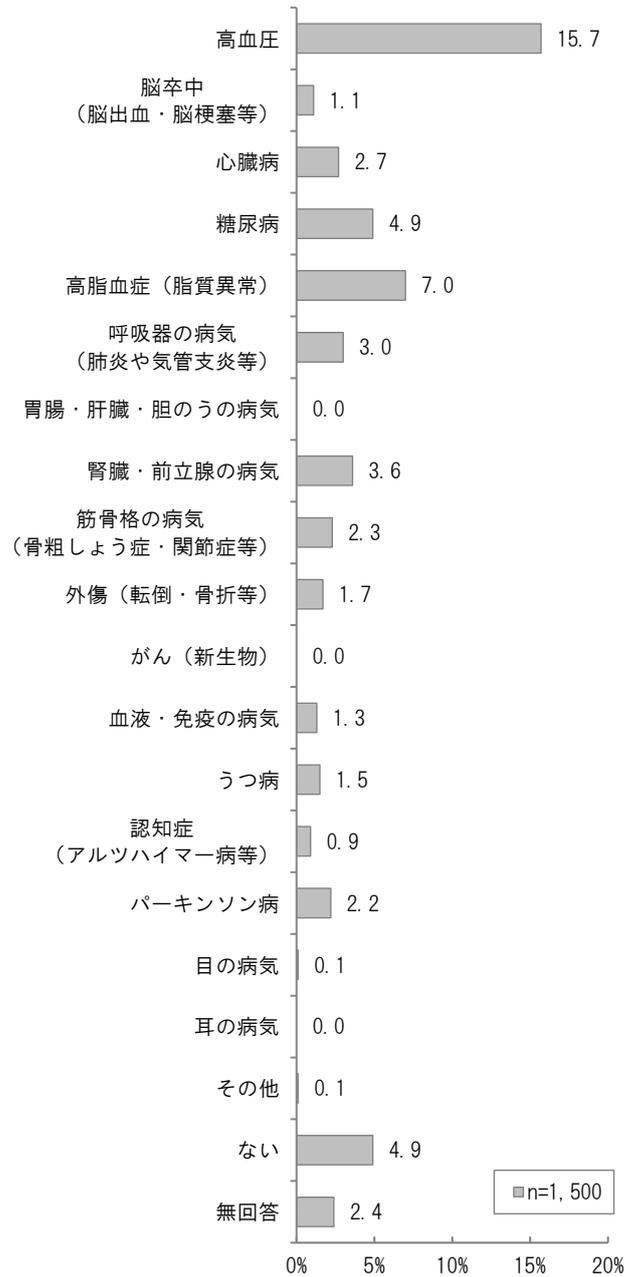
年齢階級別にみると、「高脂血症（脂質異常）」では65～69歳、「高血圧」では70～74歳が最も高くなっています。また、「目の病気」及び「心臓病」は、85～89歳まで加齢とともに上昇しています。

家族構成別にみると、夫婦2人暮らし（どちらかが65歳以上）では「高血圧」（37.0%）、「目の病気」（13.0%）、「心臓病」（9.7%）が他より低く、「ない」（22.1%）は20%を超えています。



若年者

現在治療中、または後遺症のある病気については、「高血圧」(15.7%)が最も高く、次いで「高脂血症(脂質異常)」(7.0%)、「糖尿病」(4.9%)、「胃腸・肝臓・胆のうの病気」(3.6%)「呼吸器の病気(肺炎や気管支炎等)」(3.0%)となっています。また、病気が「ない」は4.9%となっています。



ウ 病院・医院（診療所、クリニック）への通院状況

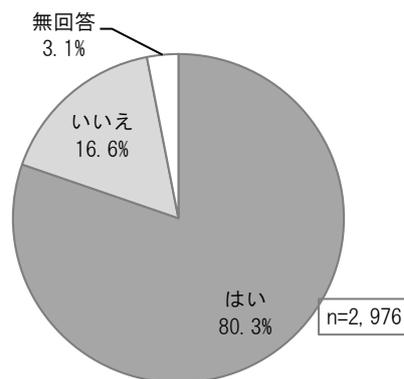
高齢者

病院・医院への通院状況は「はい」は80.3%となっています。

性別にみると、「はい」は、女性が80.7%、男性が80.4%となっています。

年齢階級別にみると、「はい」は80~84歳まで加齢とともに上昇し、80~84歳では89.6%となっています。

家族構成別にみると、「はい」は、夫婦2人暮らし（ともに65歳以上）（81.9%）が最も高く、次いで息子・娘との2世帯（79.9%）となっています。

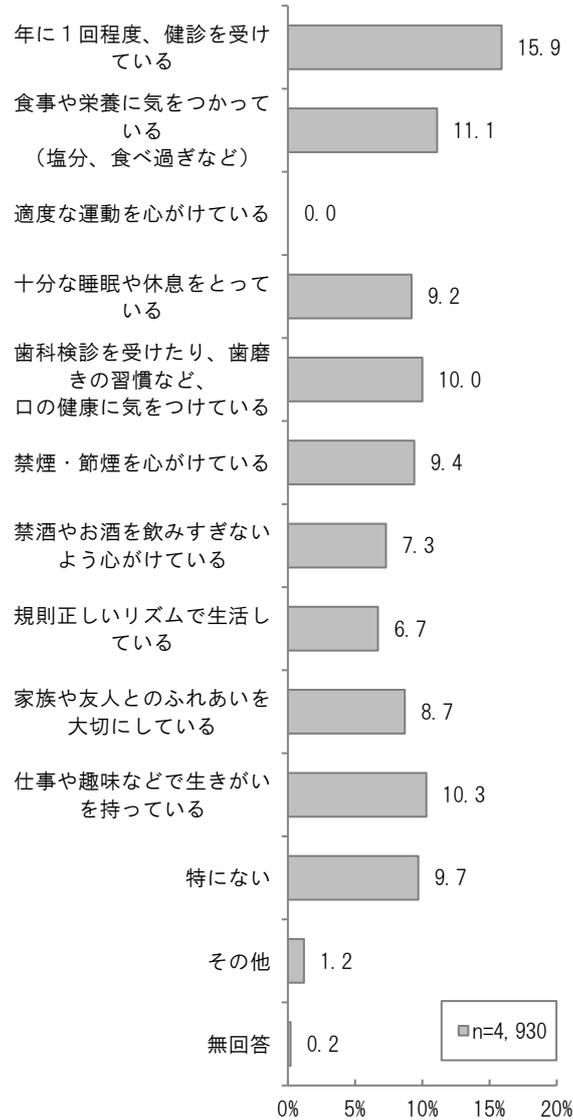


エ 健康のために気をつけていること（複数回答可）

若年者

健康のために気をつけていることについては、「年に1回程度、健診を受けている」(15.9%)が最も高く、次いで「食事や栄養に気をつけている（塩分、食べ過ぎなど）」(11.1%)、「仕事や趣味などで生きがいを持っている」(10.3%)となっています。

なお、「その他」としては「散歩、ストレッチなどの運動」などの回答がありました。

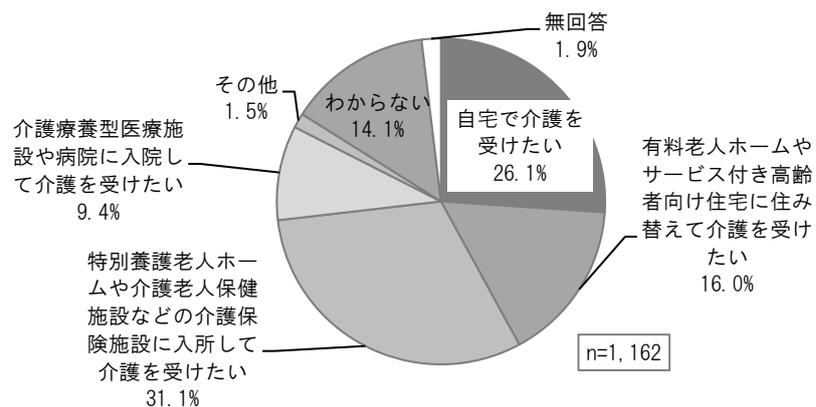


(6) 高齢者介護の考え

ア 介護を受けたい場所の希望

若年者

介護を受けたい場所の希望については、「特別養護老人ホームや介護老人保健施設などの介護保険施設に入所して介護を受けたい」(31.1%)が最も高く、次いで「自宅で介護を受けたい」が26.1%となっています。なお、「その他」としては「介護の程度やそのときの状況による」などの回答がありました。



イ 将来の在宅医療や介護の意向及び実現の可能性

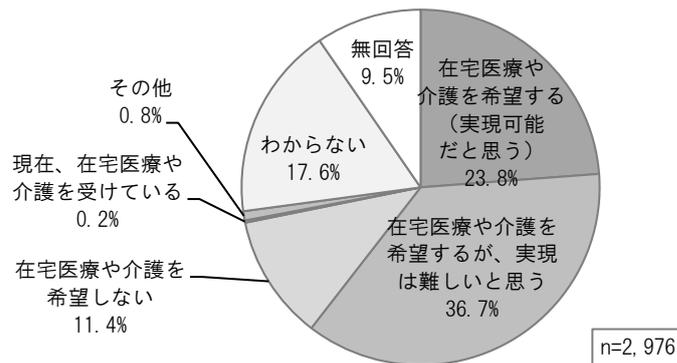
高齢者

将来の在宅医療や介護の意向については、「在宅医療や介護を希望するが、実現は難しいと思う」(36.7%)が最も高く、次いで「在宅医療や介護を希望する(実現可能だと思う)」(23.8%)となっています。

性別にみると、「在宅医療や介護を希望するが、実現は難しいと思う」は女性(41.1%)が男性(33.2%)を上回り、「在宅医療や介護を希望する(実現可能だと思う)」は男性(29.6%)が女性(17.3%)を上回っています。

年齢階級別にみると、「在宅医療や介護を希望するが、実現は難しいと思う」は全ての年代で30%台、「在宅医療や介護を希望する(実現可能だと思う)」は全ての年代で20%台となっています。

家族構成別にみると、「在宅医療や介護を希望するが、実現は難しいと思う」は夫婦2人暮らし(ともに65歳以上)(39.1%)、「在宅医療や介護を希望する(実現可能だと思う)」は夫婦2人暮らし(どちらかが65歳以上)(35.7%)で、最も高くなっています。



ウ 在宅医療を希望しない、または実現が難しいと思う理由
 (②で「在宅医療や介護を希望するが、実現は難しいと思う」
 「在宅医療や介護を希望しない」と回答した方、複数回答可)

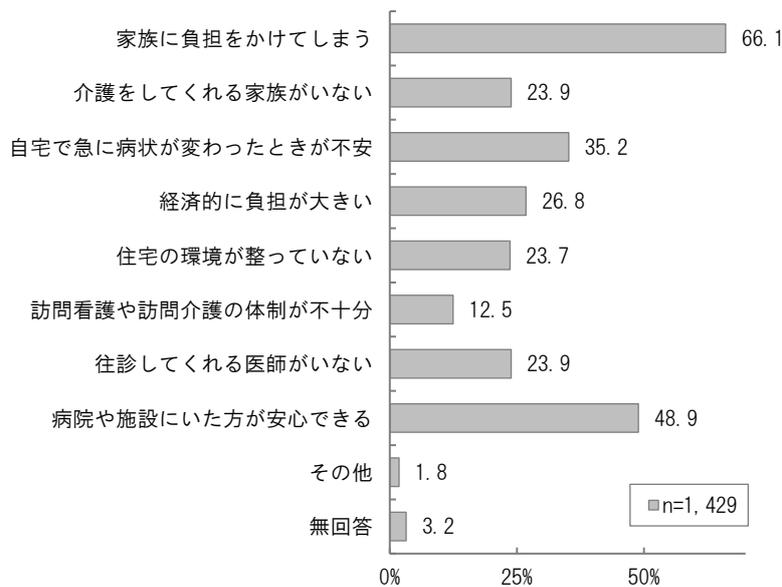
高齢者

在宅医療を希望しない・実現が難しい理由は、「家族に負担をかけてしまう」(66.1%)が最も高く、次いで「病院や施設にいた方が安心できる」(48.9%)、「自宅で急に病状が変わったときが不安」(35.2%)となっています。

性別にみると、男性では「経済的に負担が大きい」(29.7%)や「往診してくれる医師がない」(26.3%)で女性を上回り、女性では「介護をしてくれる家族がない」(30.4%)や「住宅の環境が整っていない」(24.9%)で男性を上回っています。

年齢階級別にみると、「家族に負担をかけてしまう」や「経済的に負担が大きい」では65～69歳、「自宅で急に病状が変わったときが不安」では70～74歳、「病院や施設にいた方が安心できる」では80～84歳が最も高くなっています。

家族構成別にみると、「家族に負担をかけてしまう」では息子・娘との2世帯(81.6%)が他より高く、「自宅で急に病状が変わったときが不安」では夫婦2人暮らし(ともに65歳以上)(38.5%)が他より高くなっています。



エ 人生の最期を迎えたい場所

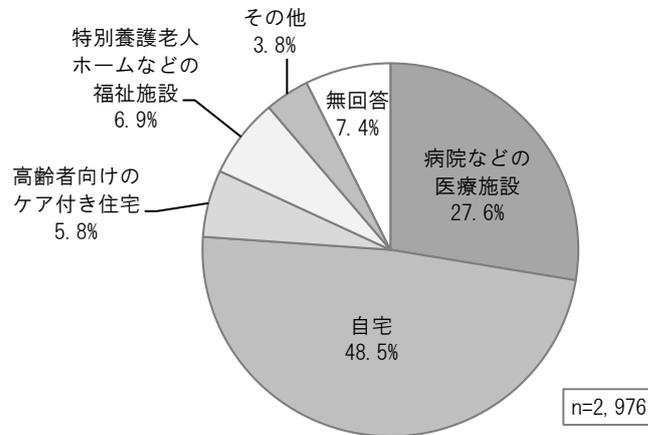
高齢者

人生の最後を迎えたい場所は、「自宅」(48.5%)で最も高く、次いで「病院などの医療施設」(27.6%)となっています。

性別にみると、「自宅」は男性(54.8%)が女性(41.7%)を上回り、「病院などの医療施設」は女性(30.9%)が男性(24.6%)を上回っています。

年齢階級別にみると、「自宅」は90歳以上(61.8%)、85~89歳(53.6%)、65~69歳(52.5%)で50%を超えています。

家族構成別にみると、「自宅」は夫婦2人暮らし(どちらかが65歳以上)(64.3%)が、「病院などの医療施設」「高齢者向けのケア付き住宅」「特別養護老人ホームなどの福祉施設」は1人暮らしが、他より高くなっています。



(7) 市の福祉サービスや介護予防について

ア 福祉サービスの認知度

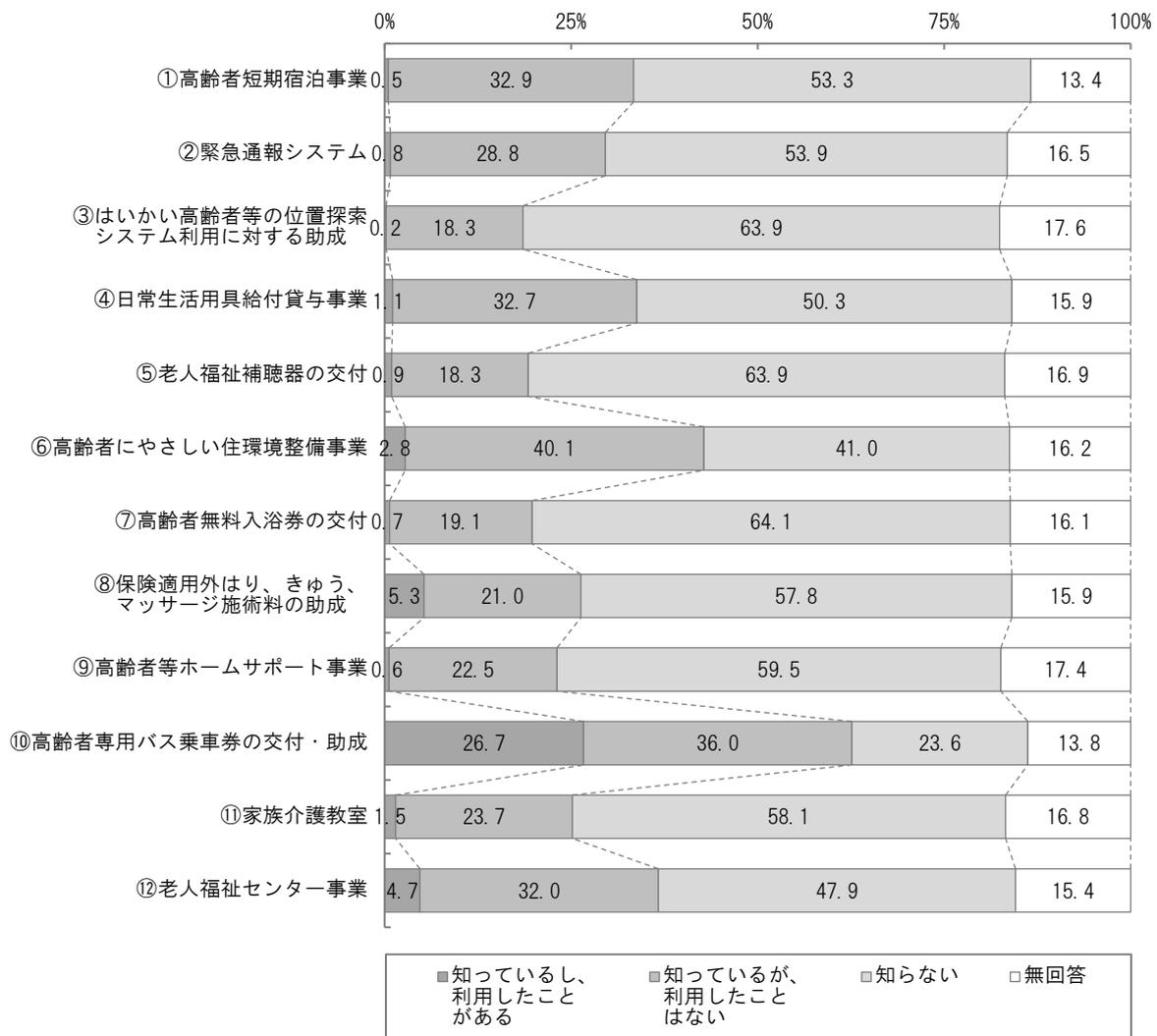
イ 福祉サービスの利用意向

高齢者

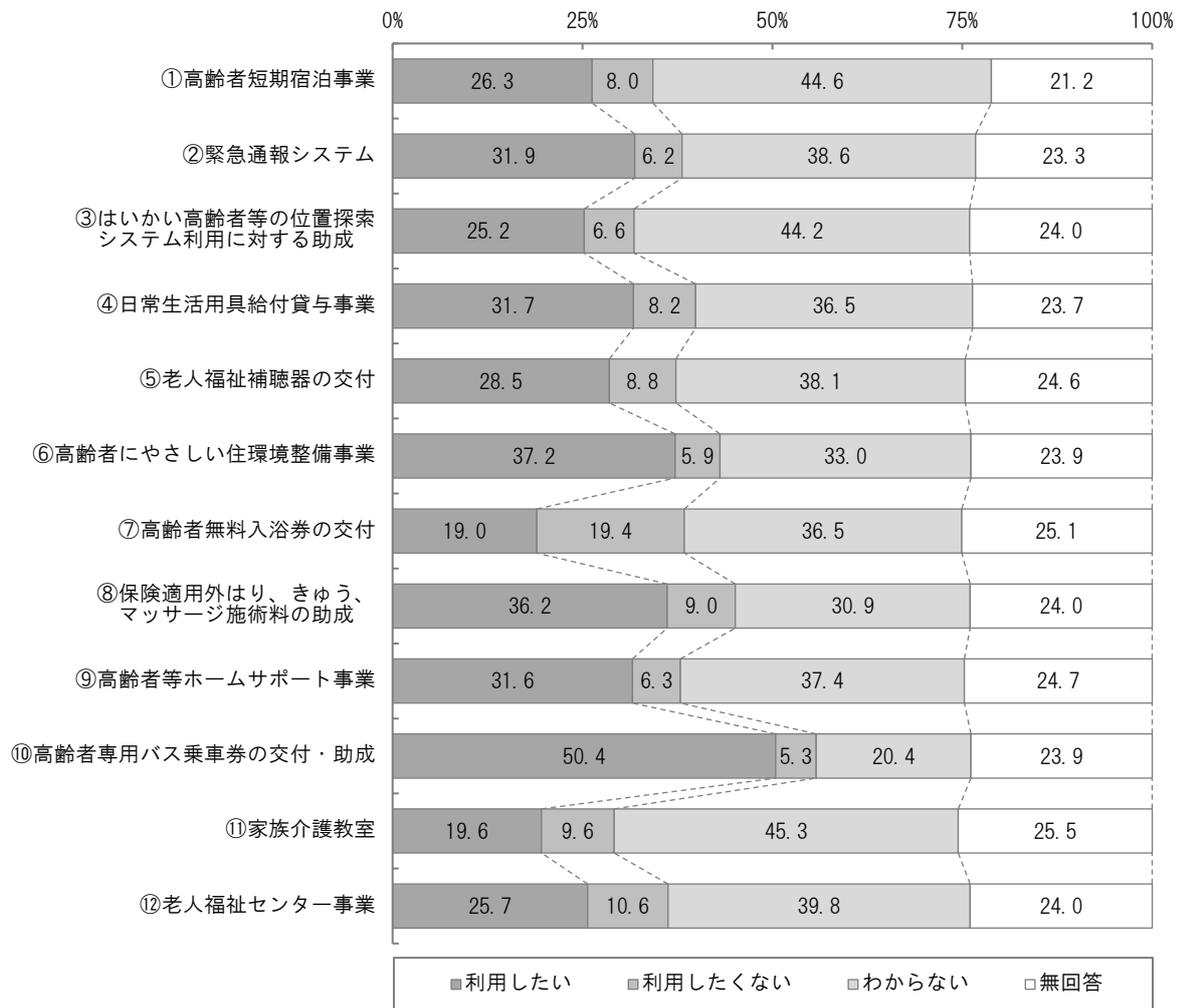
福祉サービスの認知度について、市全体で「知っているし、利用したことがある」が最も高いのは「⑩高齢者専用バス乗車券の交付・助成」(26.7%)、「知っているが、利用したことはない」が最も高いのは「⑥高齢者にやさしい住環境整備事業」(40.1%)、「知らない」が最も高いのは「⑦高齢者無料入浴券の交付」(64.1%)となっています。

福祉サービスの利用意向について、市全体で「利用したい」が最も高いのは「⑩高齢者専用バス乗車券の交付・助成」(50.4%)、「利用したくない」が最も高いのは「⑦高齢者無料入浴券の交付」(19.4%)となっています。

市の福祉サービスの認知度



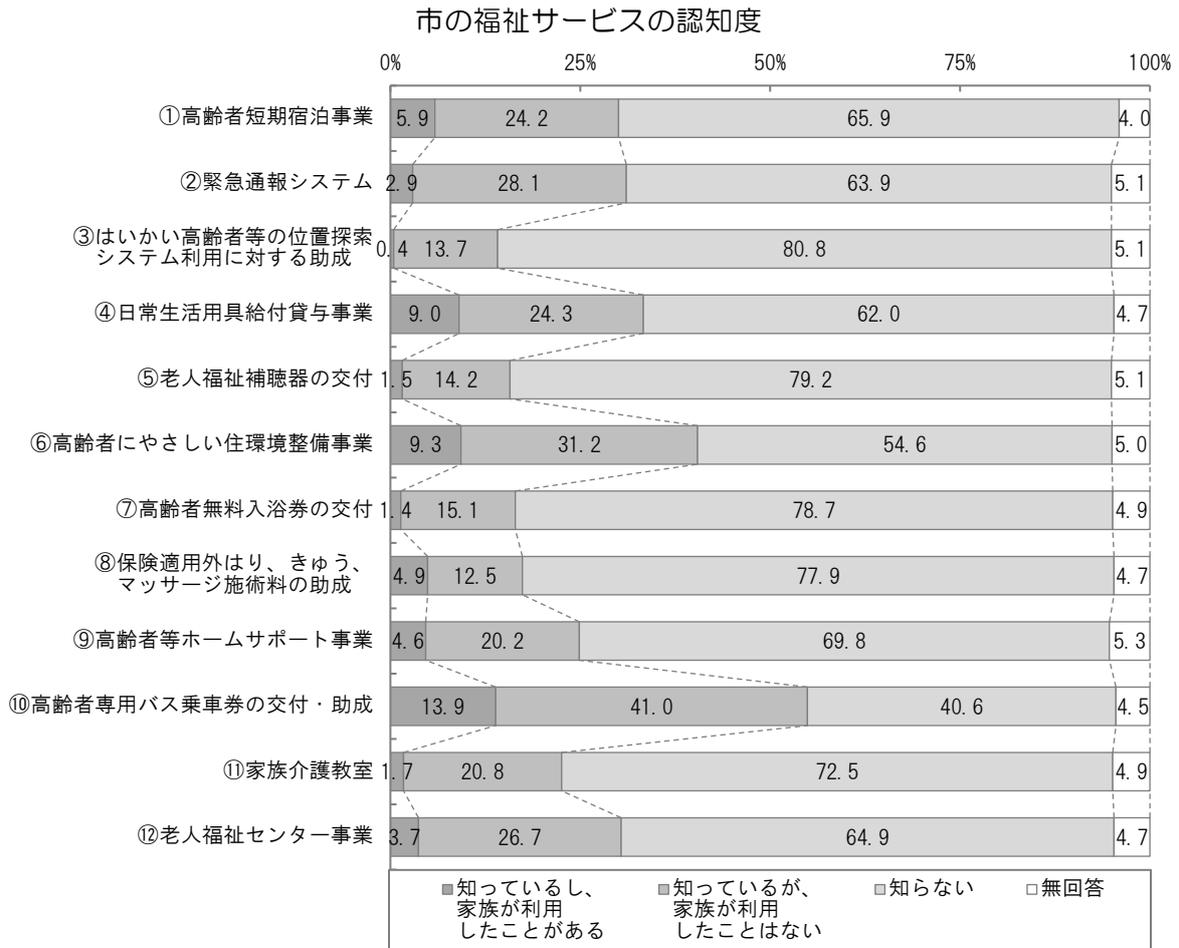
市の福祉サービスの利用意向



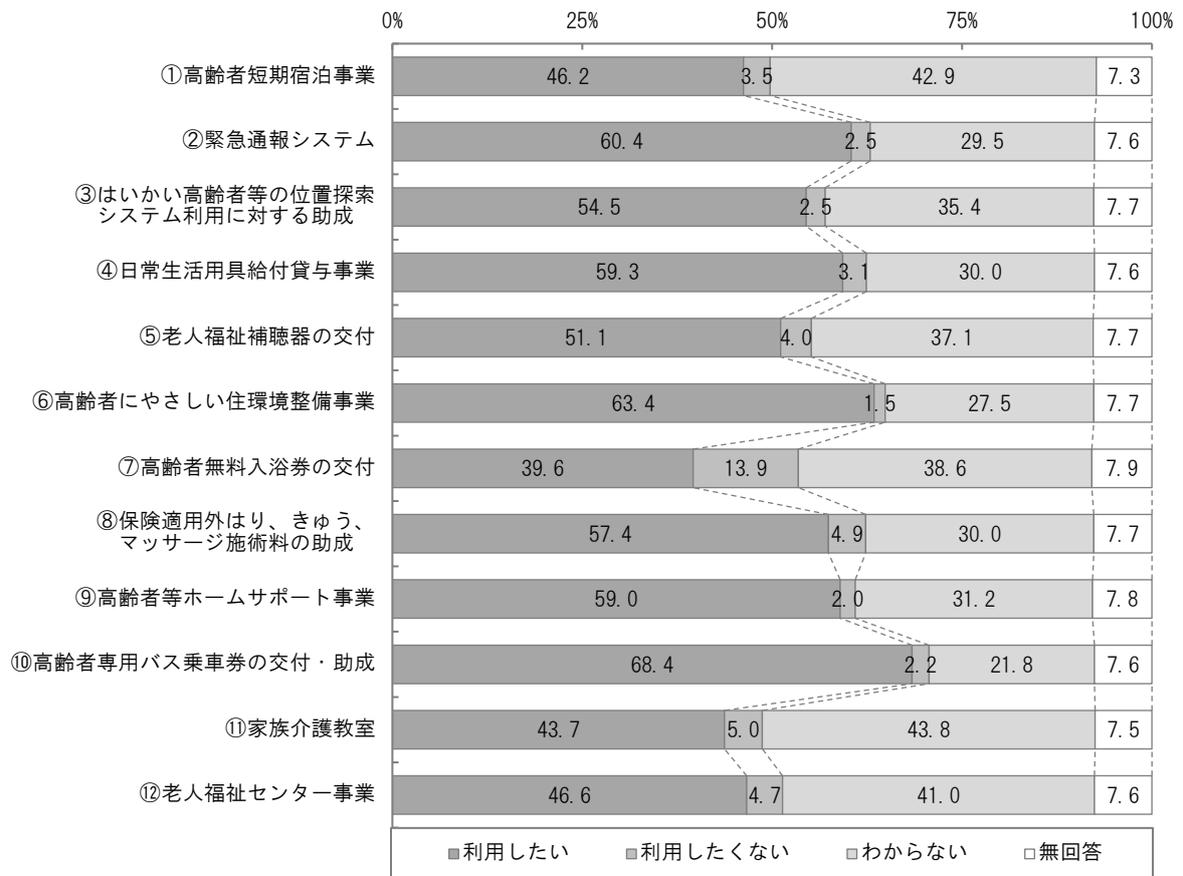
若年者

市の福祉サービスの認知度については、「高齢者専用バス乗車券の交付・助成」(54.9%)を知っているが最も高く、次いで「高齢者にやさしい住環境整備事業」(40.5%)、「緊急通報システム」(31.0%)となっています。

市の福祉サービスの利用意向については、「高齢者専用バス乗車券の交付・助成」(68.4%)を希望するが最も高く、次いで「高齢者にやさしい住環境整備事業」(63.4%)、「緊急通報システム」(60.4%)となっています。



市の福祉サービスの利用意向



ウ 「地域包括支援センター」の認知度

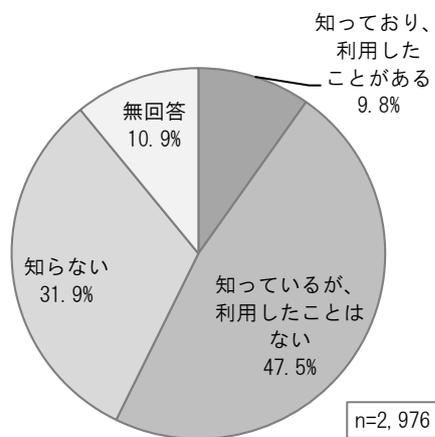
高齢者

包括支援センターを「知っており、利用したことがある」は9.8%、「知っているが、利用したことはない」は47.5%、「知らない」は31.9%となっています。

性別にみると、「知っており、利用したことがある」「知っているが、利用したことはない」は女性が男性を上回り、「知らない」は男性が女性を上回っています。

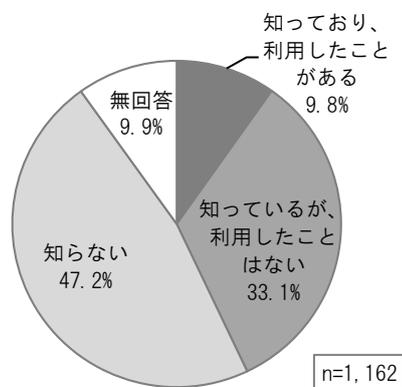
年齢階級別にみると、「知っており、利用したことがある」は85～89歳まで加齢とともに上昇しています。

家族構成別にみると、「知っており、利用したことがある」は1人暮らし（13.4%）で10%を超えており、「知らない」は夫婦2人暮らし（どちらかが65歳以上）（39.6%）が最も高くなっています。



若年者

地域包括支援センターの認知度については、「知らない」（47.2%）が最も高く、次いで「知っているが利用したことはない」（33.1%）となっています。



(8) 介護保険について

ア 介護保険制度について知っていること（複数回答可）

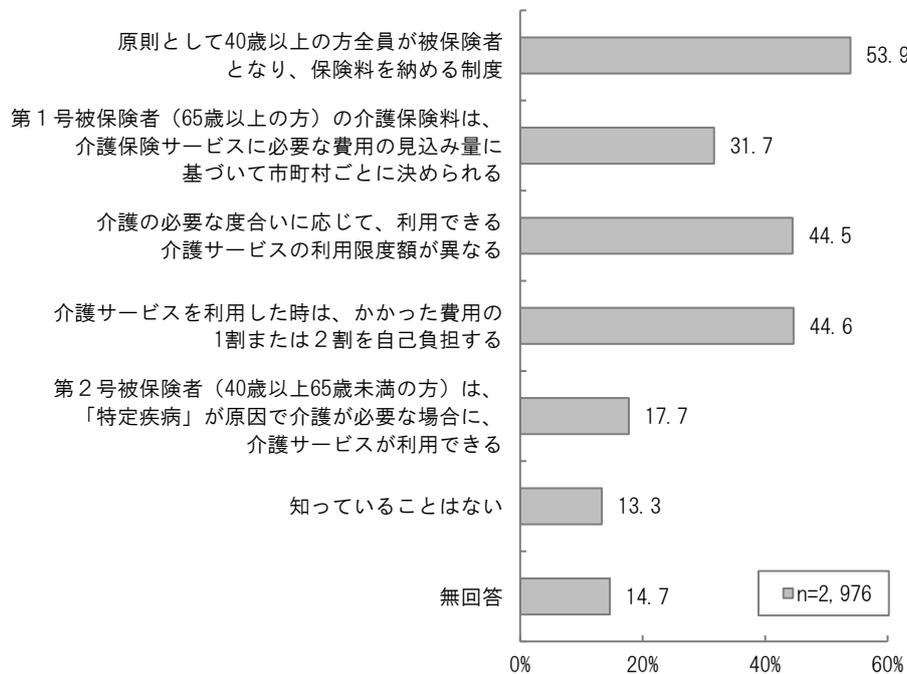
高齢者

介護保険制度の認知度は、「原則として40歳以上の方全員が被保険者となり、保険料を納める制度」（53.9%）が最も高く、次いで「介護サービスを利用した時は、かかった費用の1割または2割を自己負担する」（44.6%）、「介護の必要な度合いに応じて、利用できる介護サービスの利用限度額が異なる」（44.5%）、「第1号被保険者（65歳以上の方）の介護保険料は、介護保険サービスに必要な費用の見込み量に基づいて市町村ごとに決められる」（31.7%）となっています。また、「知っていることはない」は13.3%となっています。

性別にみると、「原則として40歳以上の方全員が被保険者となり、保険料を納める制度」では男性（55.0%）が女性（53.6%）を上回り、その他の知っている項目では女性が男性を上回っています。

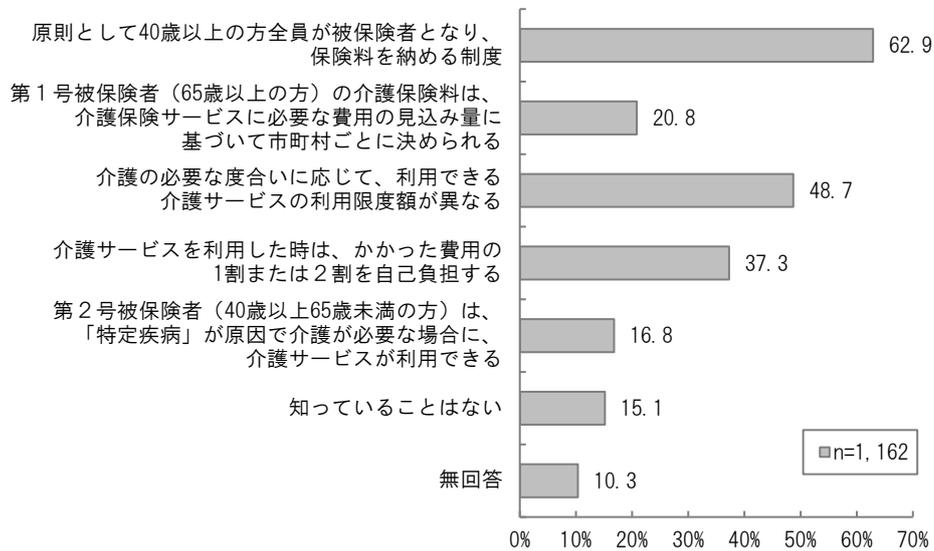
年齢階級別にみると、知っている項目のほとんどが65～69歳で最も高く、加齢とともに低下しています。

家族構成別にみると、1人暮らしでは「原則として40歳以上の方全員が被保険者となり、保険料を納める制度」（48.3%）、「介護の必要な度合いに応じて、利用できる介護サービスの利用限度額が異なる」（40.8%）、「第1号被保険者（65歳以上の方）の介護保険料は、介護保険サービスに必要な費用の見込み量に基づいて市町村ごとに決められる」（26.6%）が最も低くなっています。



若年者

介護保険制度の認知度については、「原則して40歳以上の方全員が被保険者となり、保険料を納める制度」（62.9%）を知っているが最も高く、次いで「介護の必要な度合に応じて、利用できる介護サービスの利用限度額が異なる」（48.7%）となっています。



イ 介護保険料と保険給付のあり方

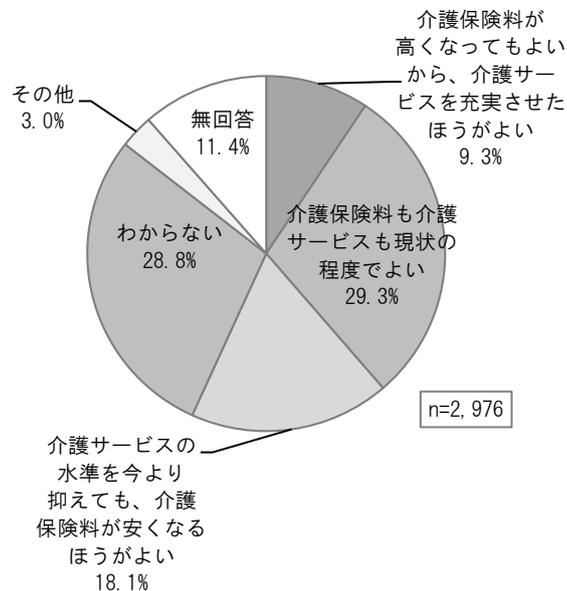
高齢者

介護保険料と保険給付のあり方については、「介護保険料も介護サービスも、現状の程度でよい」(29.3%)が最も高く、「介護サービスの水準を今より抑えても、介護保険料が安くなるほうがよい」は18.1%、「介護保険料が多少高くなってもよいから、介護サービスを充実させたほうがよい」は9.3%となっています。また、「わからない」は28.8%となっています。

性別にみると、「介護保険料が多少高くなってもよいから、介護サービスを充実させたほうがよい」「介護保険料も介護サービスも、現状の程度でよい」「介護サービスの水準を今より抑えても、介護保険料が安くなるほうがよい」のいずれも、男性が女性を上回っています。

年齢階級別にみると、「介護サービスの水準を今より抑えても、介護保険料が安くなるほうがよい」では、70～74歳(19.5%)及び65～69歳(19.0%)で他より高く、「介護保険料も介護サービスも、現状の程度でよい」では、70～74歳(31.2%)及び80～84歳(30.5%)で30%を超えています。

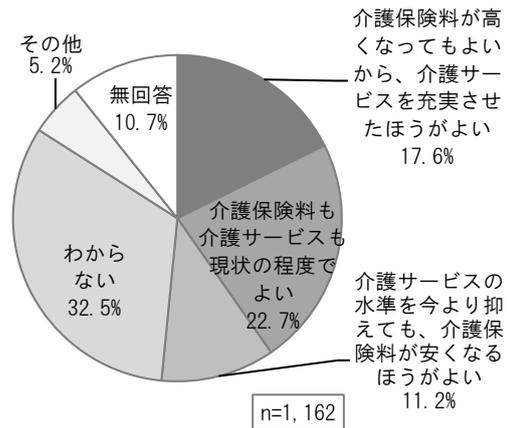
家族構成別にみると、「介護サービスの水準を今より抑えても、介護保険料が安くなるほうがよい」では、夫婦2人暮らし(どちらかが65歳以上)(22.1%)、「介護サービスの水準を今より抑えても、介護保険料が安くなるほうがよい」では、夫婦2人暮らし(ともに65歳以上)(33.7%)、「介護保険料が多少高くなってもよいから、介護サービスを充実させたほうがよい」では、夫婦2人暮らし(ともに65歳以上)(10.9%)が、最も高くなっています。



若年者

介護保険料と保険給付のあり方については、「わからない」(32.5%)が最も高く、「介護保険料も介護サービスも現状の程度でよい」は22.7%、「介護保険料が高くなってもよいから介護サービスを充実させたほうがよい」は17.6%、「介護サービスの水準を今より抑えても、介護保険料が安くなるほうがよい」は11.2%となっています。

なお、「その他」としては「介護保険料は安く、サービスを充実させて欲しい」などの回答がありました。

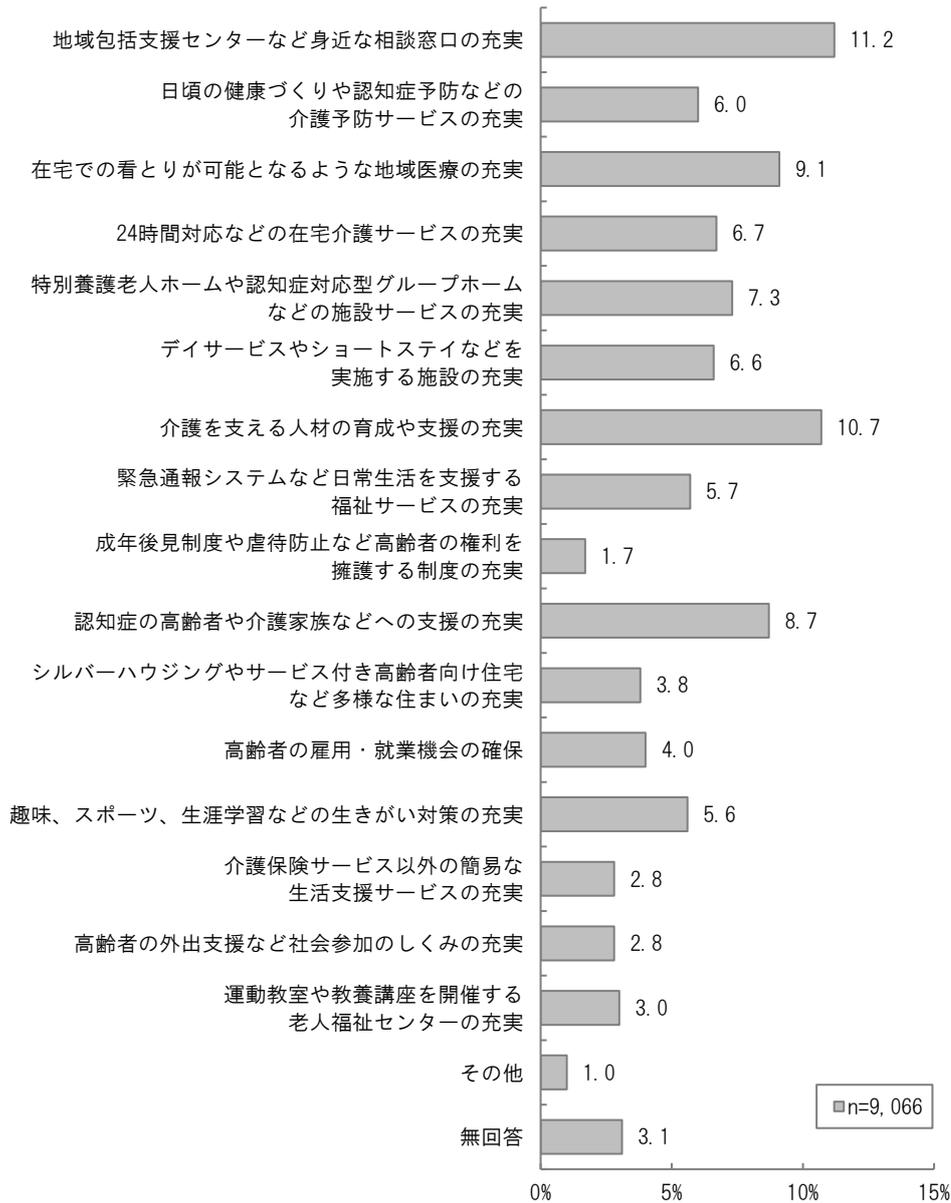


(9) 市が取り組むべき施策

ア 高齢社会において、必要だと思われる施策（3つまで）

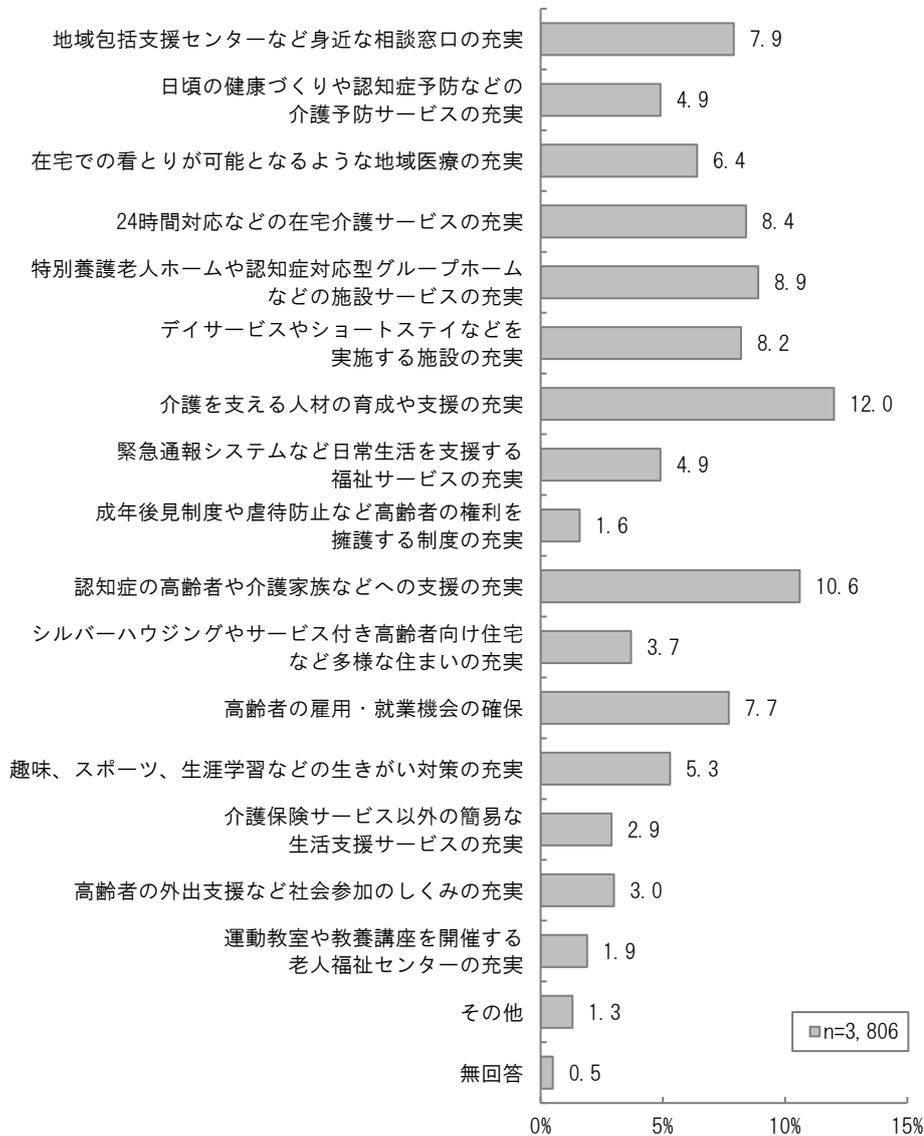
高齢者

今後、取り組むべき施策については、「地域包括支援センターなど身近な相談窓口の充実」（11.2%）が最も高く、次いで「介護を支える人材の育成や支援の充実」（10.7%）、「在宅での看とりが可能となるような地域医療の充実」（9.1%）、「認知症の高齢者や介護家族などへの支援の充実」（8.7%）となっています。



若年者

今後、取り組むべき施策については、「介護を支える人材の育成や支援の充実」(12.0%)が最も高く、次いで「認知症の高齢者や介護家族などへの支援の充実」(10.6%)、「特別養護老人ホーム認知症対応型グループホームなどの施設サービスの充実」(8.9%)となっています。なお、「その他」としては「公共機関の交通整理」などの回答がありました。

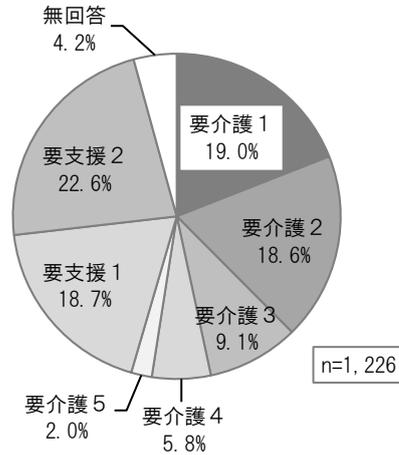


3 在宅介護実態調査

(1) 本人の属性

ア 現在の要介護（要支援）度

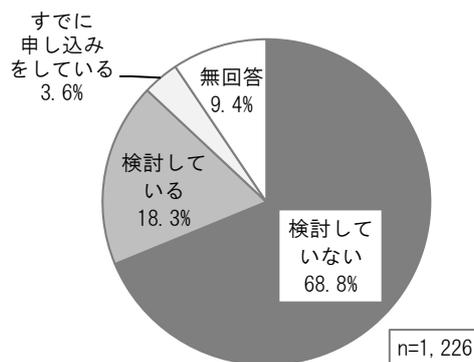
現在の要介護（要支援）度については、「要支援2」（22.6%）が最も高く、次いで「要介護1」（19.0%）、「要支援1」（18.7%）、「要介護2」（18.6%）となっています。



(2) サービスの利用状況

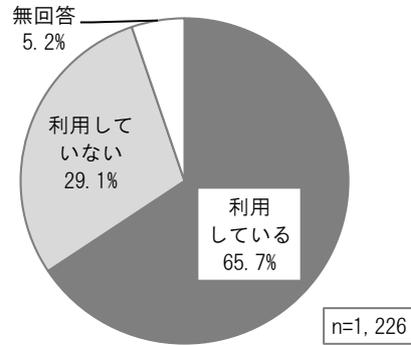
ア 施設等への入所・入居の検討状況

施設等への入所・入居については、「検討していない」（68.8%）が「検討している」（18.3%）を上回っています。



イ 介護保険サービスの利用状況

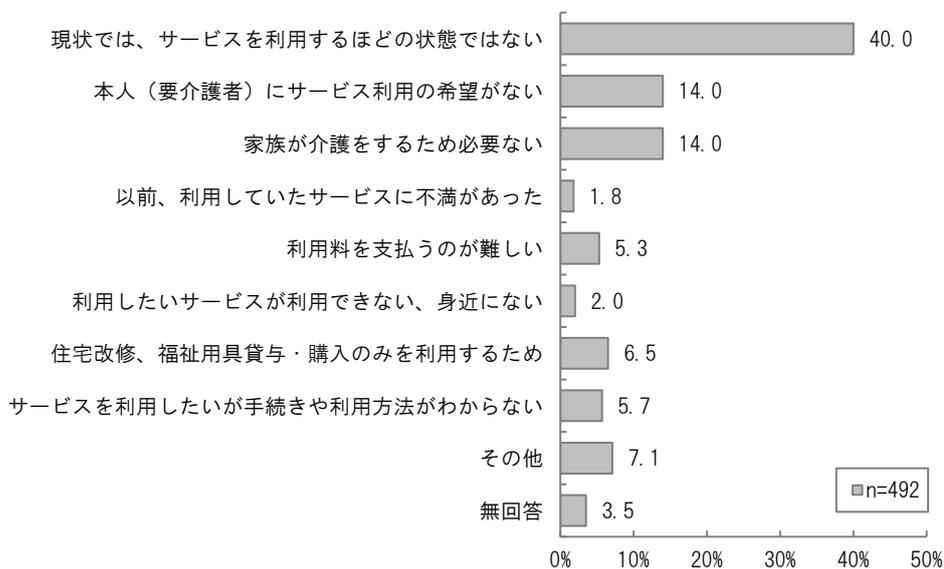
介護保険サービスの利用状況については、「利用している」(65.7%)が「利用していない」(29.1%)を上回っています。



ウ 介護保険サービスを利用していない理由

(②で「利用していない」と回答した方、複数回答)

介護保険サービスを利用していない理由については、「現状では、サービスを使用するほどの状態ではない」(40.0%)が最も高く、次いで「本人(要介護者)にサービス利用の希望がない」「家族が介護をするため必要ない」(いずれも14.0%)となっています。



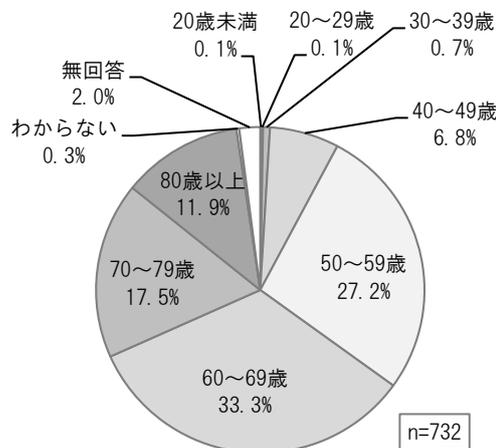
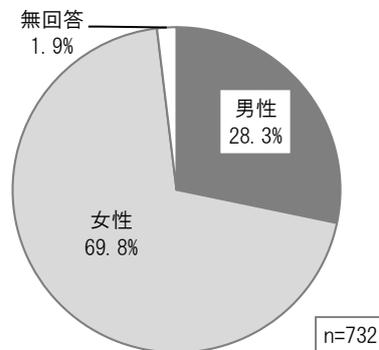
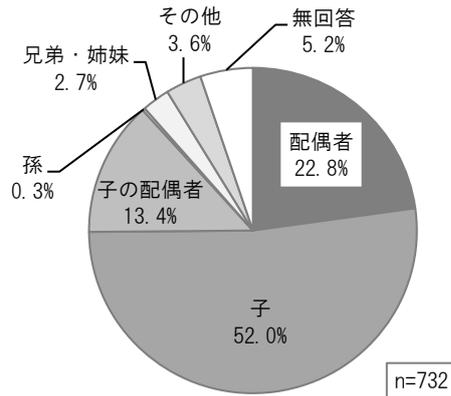
(3) 家族介護の状況

ア 主な介護者

イ 主な介護者の性別

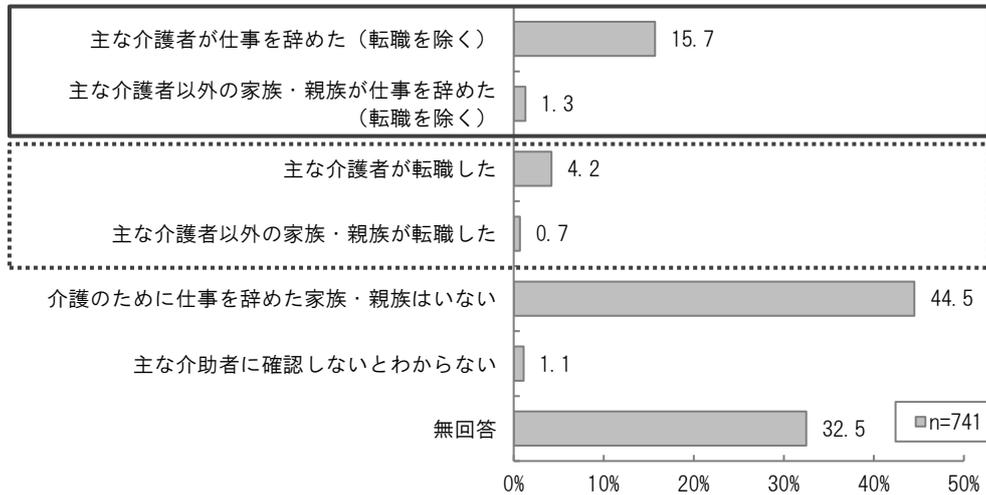
ウ 主な介護者の年齢

主な介護者の本人との関係は「子」(52.0%)、性別では「女性」(69.8%)、年齢では「60代」(33.3%)が、それぞれ最も高くなっています。



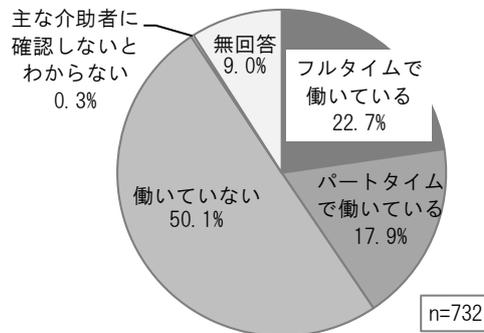
エ 介護のための退職・転職（複数回答）

家族・親族の介護を理由とした退職・転職の状況については、「主な介護者が仕事を辞めた（転職は除く）」が15.7%、「主な介護者が転職した」が4.2%となっています。また、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」は44.5%となっています。



オ 主な介護者の現在の勤務形態

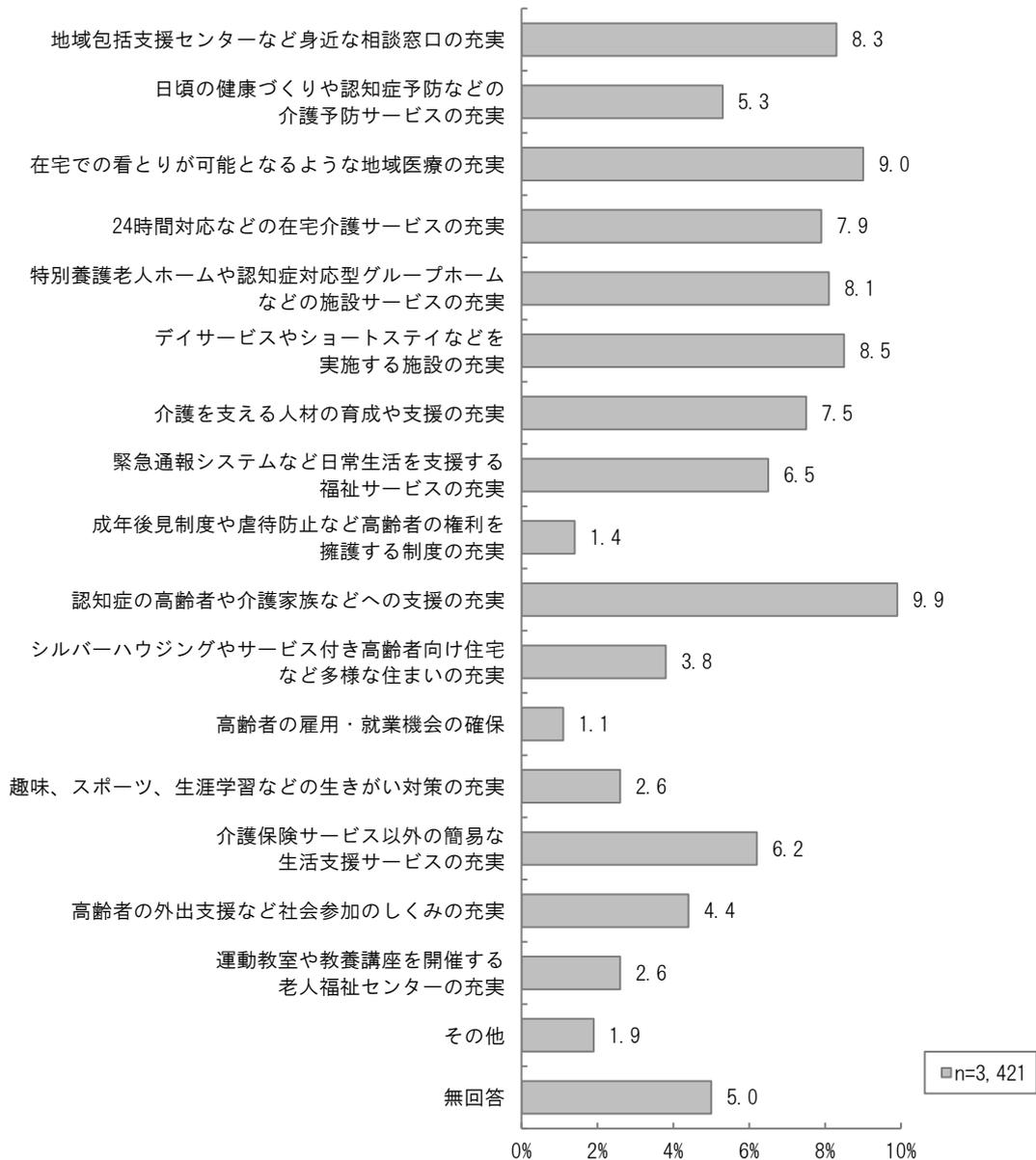
主な介護者の勤務形態については、「フルタイムで働いている」が22.7%、「パートタイムで働いている」が17.9%となっています。また、「働いていない」が50.1%となっています。



(4) 市が取り組むべき施策

ア 高齢社会において、必要だと思われる施策（3つまで）

今後取り組みが必要だと思われる施策については、「認知症の高齢者や介護家族などへの支援の充実」(9.9%)が最も高く、次いで「在宅での看とりが可能となるような地域医療の充実」(9.0%)、「デイサービスやショートステイなどを実施する施設の充実」(8.5%)となっています。



第2章 認知症に関する調査（7/18版）

1 調査の概要

(1) 調査の目的

「第8次宇都宮市高齢者保健福祉計画・第7期宇都宮市介護保険事業計画（対象期間：平成30年度から平成32年度まで）」の策定にあたり、認知症高齢者・介護者の意識・生活状況や、若年層の認知症に対する意識、医療機関等における認知症対応の現状などを把握するために、調査を実施しました。

(2) 調査の内容

ア 高齢者意識調査

調査対象	平成29年1月31日現在、市内在住の65歳以上の者 1,000人
調査期間	平成29年3月17日～3月27日
調査方法	郵送配布、郵送回収

イ 市民意識調査

調査対象	平成29年1月31日現在、市内在住の20歳以上64歳以下の者 1,000人
調査期間	平成29年3月17日～3月27日
調査方法	郵送配布、郵送回収

ウ 医療機関調査

調査対象	平成29年1月31日現在、市内に所在する病院・診療所 462機関 (小児科単科を除く)
調査期間	平成29年3月17日～3月27日
調査方法	郵送配布、郵送回収

エ 居宅介護支援事業者調査

調査対象	平成29年1月31日現在、市内に所在する居宅介護支援事業所 133事業所
調査期間	平成29年3月17日～3月27日
調査方法	郵送配布、郵送回収

才 地域包括支援センター調査

調査対象	平成 29 年 1 月 31 日現在、市内に所在する全地域包括支援センター 25 箇所
調査期間	平成 29 年 3 月 17 日～3 月 27 日
調査方法	郵送配布、郵送回収

(3) 調査票の配布及び回答状況

調査名	対象者等数	回収数	回収率
ア 高齢者意識調査	1,000 人	558 人	55.8%
イ 市民意識調査	1,000 人	343 人	34.3%
ウ 医療機関調査	462 機関	206 機関	44.6%
エ 居宅介護支援事業者調査	133 事業所	83 事業所	62.4%
才 地域包括支援センター調査	25 箇所	25 箇所	100.0%

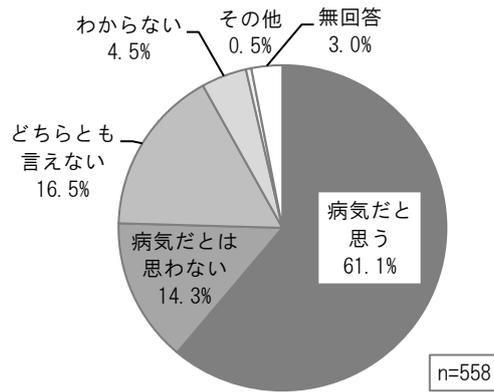
2 高齢者意識調査／市民意識調査(若年者)

(1) 認知症について

ア 認知症は病気だと思うか

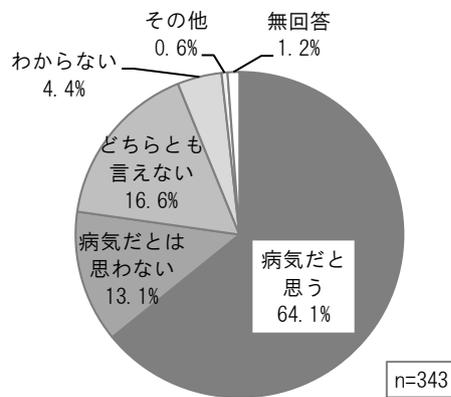
高齢者

認知症は病気だと思うは61.1%、病気だと思わないは14.3%、どちらとも言えないは16.5%となっています。



若年者

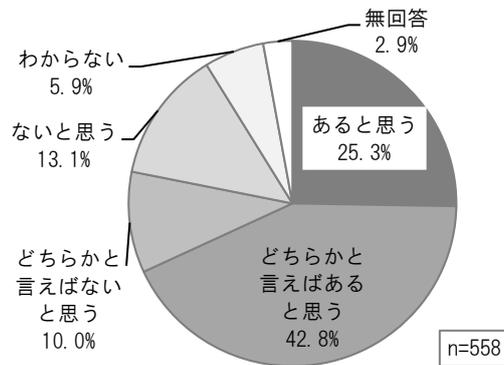
「病気だと思う」が64.1%、「病気だと思わない」が13.1%、「どちらとも言えない」が16.6%となっています。



イ 認知症の人が偏見を持って見られる傾向にあると思うか

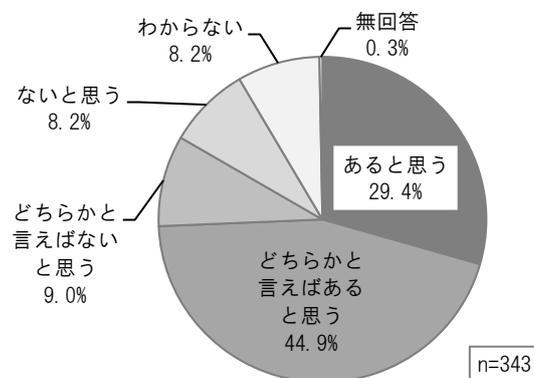
高齢者

認知症の人が偏見を持って見られる傾向が、「あると思う」「どちらかと言えばあると思う」の合計は68.1%、「どちらかと言えばないと思う」「ないと思う」の合計は23.1%となっています。



若年者

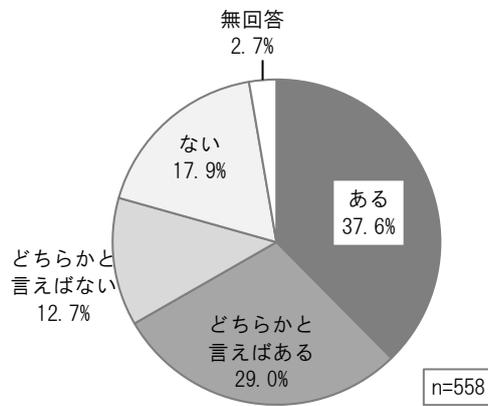
認知症の人が偏見を持って見られる傾向が、「あると思う」「どちらかと言えばあると思う」の合計は74.3%、「どちらかと言えばないと思う」「ないと思う」の合計は17.2%となっています。



ウ 認知症に対する不安や心配ごと

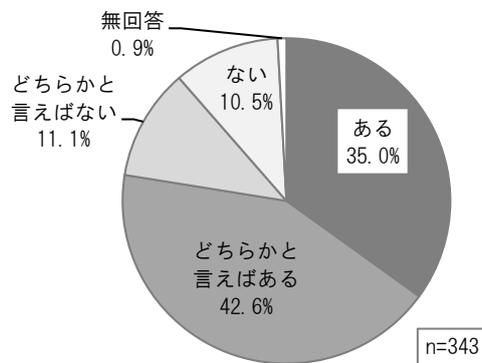
高齢者

回答者自身や家族についての認知症に対する不安や心配ごとが「ある」「どちらかと言えばある」の合計は66.6%、「どちらかと言えばない」「ない」の合計は30.6%となっています。



若年者

回答者自身や家族についての認知症に対する不安や心配ごとが「ある」「どちらかと言えばある」の合計は77.6%、「どちらかと言えばない」「ない」の合計は21.6%となっています。

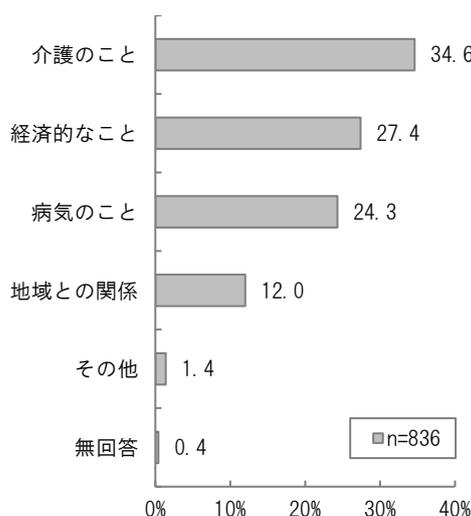


エ 不安や心配を感じること（③で「ある」「どちらかと言え ばある」と回答した方のみ、複数回答可）

高齢者

認知症に対する不安や心配ごとが「ある」「どちらかと言えばある」と回答した方について、その内容は「介護のこと（介護方法、介護を継続できるだろうか、施設介護は大丈夫だろうか、など）」が34.6%で最も高く、次いで「経済的なこと（介護費用や治療費用はどれくらいかかるのか、生活費は大丈夫か、など）」（27.4%）、「病気のこと（認知症という病気が進行して将来どうなるか、治療法はあるのか、など）」（24.3%）となっています。

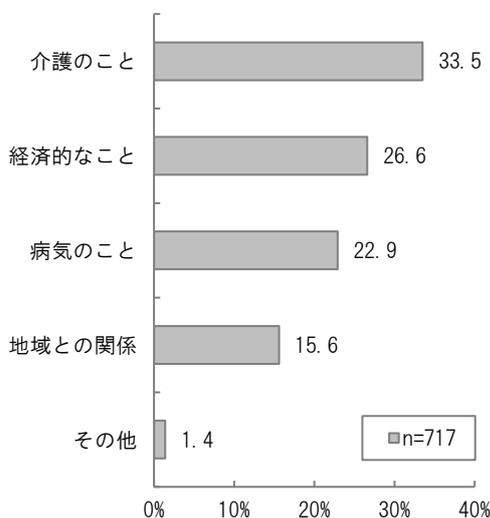
なお、「その他」では、「年を取ると不安」や「家族と相談する」などの回答となっています。



若年者

認知症に対する不安や心配ごとが「ある」「どちらかと言えばある」と回答した方について、その内容は「介護のこと（介護方法、介護を継続できるだろうか、施設介護は大丈夫だろうか、など）」が33.5%で最も高く、次いで「経済的なこと（介護費用や治療費用はどれくらいかかるのか、生活費は大丈夫か、など）」（26.6%）、「病気のこと（認知症という病気が進行して将来どうなるか、治療法はあるのか、など）」（22.9%）となっています。

なお、「その他」としては、「仕事と介護の両立」などの回答となっています。

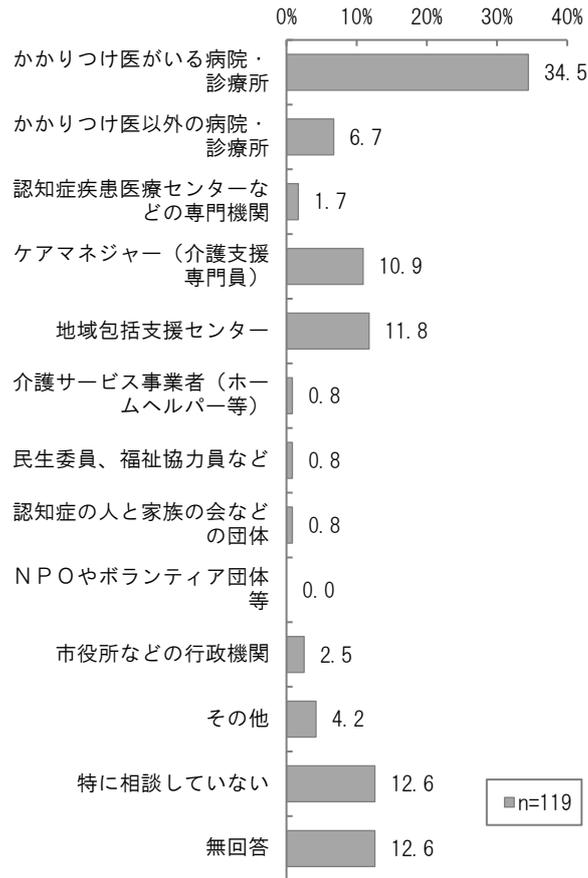


オ 認知症の疑いについての最初の相談先

(④を回答した方のみ)

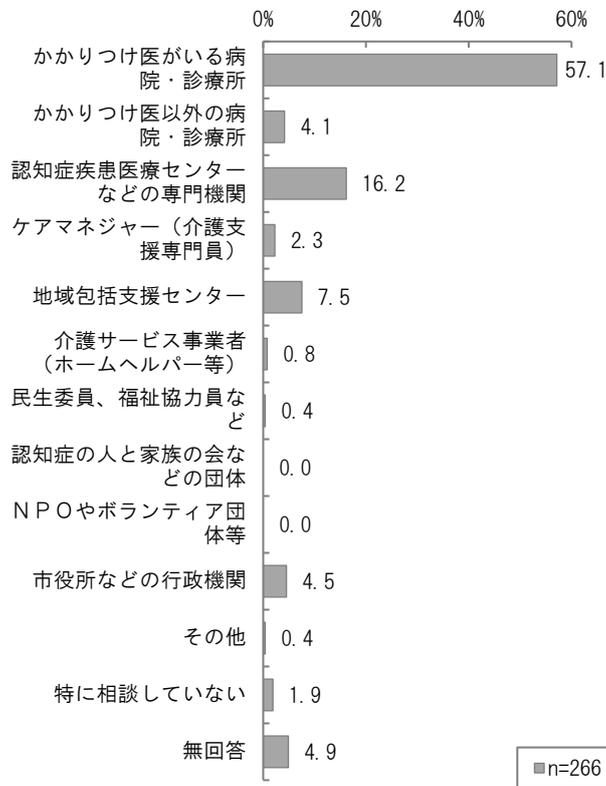
高齢者

家族、親戚、知人以外での相談先については、「かかりつけ医がいる病院・診療所」が34.5%で最も高く、次いで「地域包括支援センター」(11.8%)、「ケアマネジャー(介護支援専門員)」(10.9%)となっています。



若年者

身近な方に認知症の疑いがあるときの相談先については、「かかりつけ医がいる病院・診療所」が57.1%で最も高く、次いで「認知症疾患医療センターなどの専門機関」（16.2%）、「地域包括支援センター」（7.5%）となっています。



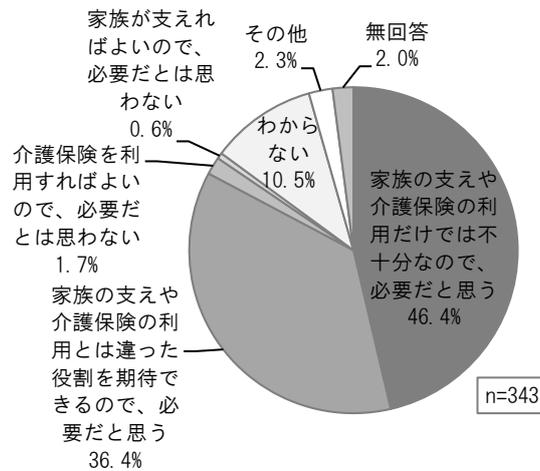
(2) 認知症の本人やその家族を支える地域づくりについて

ア 地域住民の協力は必要だと思うか

若年者

認知症の方が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるための地域住民の協力については、「家族の支えや介護保険の利用だけでは不十分なので、必要だと思う」が46.4%で最も高く、次いで「家族の支えや介護保険の利用とは違った役割を期待できるので、必要だと思う」(36.4%)となっています。

なお「その他」としては、「迷惑だと思うので家族で支えていきたい」「理解は必要だと思う」などの回答となっています。

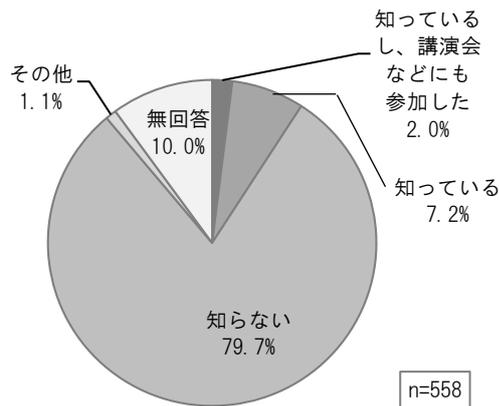


イ 「みんなで考える認知症月間」取り組みの認知度

※宇都宮市では、認知症の本人やその家族を地域ぐるみで支える体制づくりを推進するため、世界アルツハイマーデー（9月21日）を中心とした1か月間を「みんなで考える認知症月間」に設定し、各種講演会や街頭啓発活動などを集中的に実施

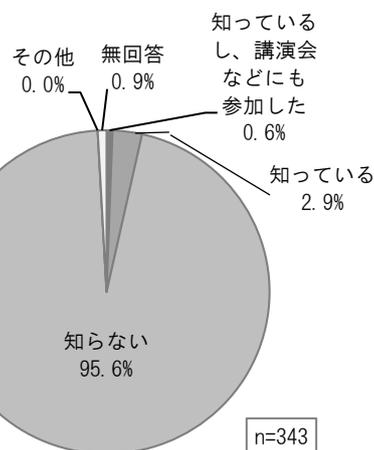
高齢者

「みんなで考える認知症月間」取組の認知度については、「知らない」が79.7%で最も高く、次いで、「知っている」が7.2%、「知っているし、講演会などにも参加した」が2.0%となっています。



若年者

「みんなで考える認知症月間」取組の認知度については、「知らない」が95.6%で最も高く、次いで「知っている」が2.9%、「知っているし、講演会などにも参加した」が0.6%となっています。



ウ 認知症サポーターの認知度

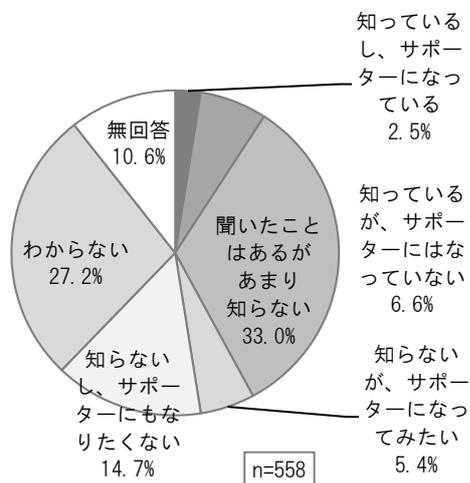
※認知症サポーター：認知症に関する講座を受講し、認知症の人やその家族を温かく見守る応援者

高齢者

認知症サポーターの認知度については、「聞いたことはあるがあまり知らない」が33.0%で最も高くなっています。

また、「知っているし、サポーターになっている」「知っているが、サポーターにはなっていない」を合わせた「知っている」は9.1%、「聞いたことはあるがあまり知らない」「知らないが、サポーターになってみたい」「知らないし、サポーターにもなりたくない」を合わせた「知らない」は53.1%となっています。

認知症サポーターへの参加状況及び参加意向については、「知っているし、サポーターになっている」は2.5%、「知っているが、サポーターにはなっていない」は6.6%となっています。また、「知らないが、サポーターになってみたい」は5.4%、「知らないし、サポーターにもなりたくない」は14.7%となっています。

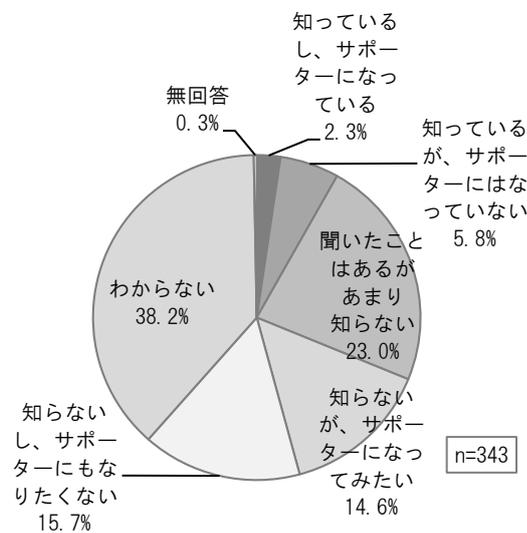


若年者

認知症サポーターの認知度については、「聞いたことはあるがあまり知らない」が23.0%で、「わからない」(38.2%)を除いて最も高くなっています。

また、「知っているし、サポーターになっている」「知っているが、サポーターにはなっていない」を合わせた「知っている」は8.1%、「聞いたことはあるがあまり知らない」「知らないが、サポーターになってみたい」「知らないし、サポーターにもなりたくない」を合わせた「知らない」は53.3%となっています。

認知症サポーターへの参加状況及び参加意向については、「知っているし、サポーターになっている」が2.3%、「知っているが、サポーターにはなっていない」が5.8%となっています。また、「知らないが、サポーターになってみたい」が14.6%、「知らないし、サポーターにもなりたくない」が15.7%となっています。

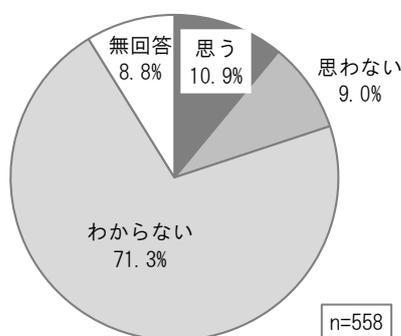


エ 宇都宮市は「認知症の本人やその家族」にとって住みやすいまちだと思う

高齢者

宇都宮市は認知症の本人やその家族に住みやすいまちだと思うかどうかについては、住みやすいまちだと「思う」は10.9%、住みやすいまちだと「思わない」は9.0%となっています。

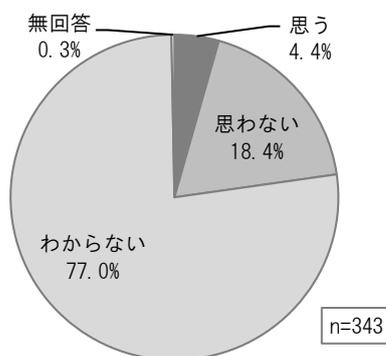
住みやすいまちだと「思う」主な理由は、「医療、福祉、介護が充実している」「住民が親切で、近所や地域の支え合いがある」「自然震災が少ない」、住みやすいまちだと「思わない」主な理由は、「近所や地域の交流が希薄で、周りに無関心な人が多い」「医療、福祉、介護の充実が必要」「認知症に対する理解や支援が不足している」「道路や交通機関が十分に整備されていない」が挙げられています。



若年者

宇都宮市は認知症の本人やその家族に住みやすいまちだと思うかどうかについては、住みやすいまちだと「思う」は4.4%、住みやすいまちだと「思わない」は18.4%となっています。

住みやすいまちだと「思う」主な理由は、「医療、福祉、介護が充実している」「住民が親切で、近所や地域の支え合いがある」「生活に便利な設備や交通機関が整っている」、住みやすいまちだと「思わない」主な理由は、「市の認知症に対する普及啓発や取組が見えない」「医療、福祉、介護の充実が必要」「市民の認知症に対する関心や理解が不足している」「家族だけで苦労をしている場合が多い」が挙げられています。



(3) 介護者について

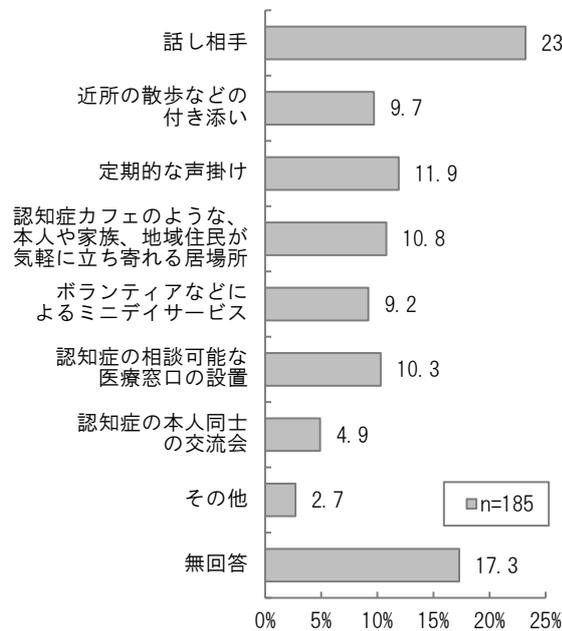
ア 本人及び介護者に対する身近な地域にあるとよい支援（複数回答）

高齢者

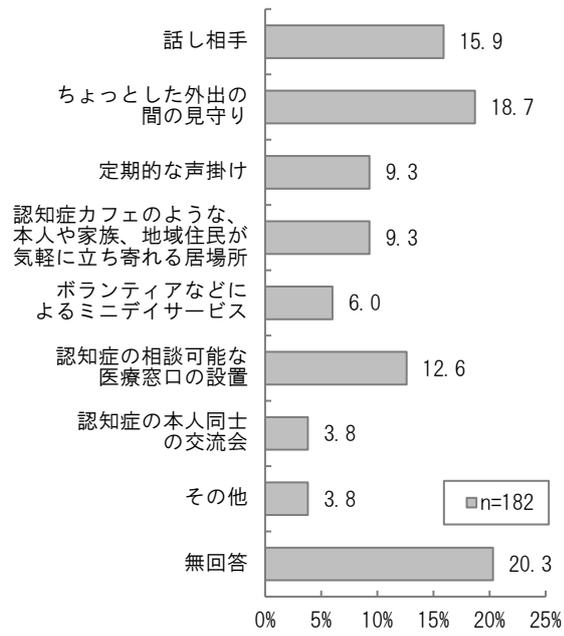
認知症の本人に対して求める支援については、「話し相手」が23.2%で最も高く、次いで「定期的な声掛け」（11.9%）、「認知症カフェのような、本人や家族、地域住民が気軽に立ち寄れる居場所」（10.8%）となっています。

認知症の介護者に対して求める支援については、「ちょっとした外出の間の見守り」が18.7%で最も高く、次いで「話し相手」（15.9%）、「認知症の相談可能な医療窓口の設置」（12.6%）となっています。

認知症の本人に対して求める支援



認知症の介護者に対して求める支援



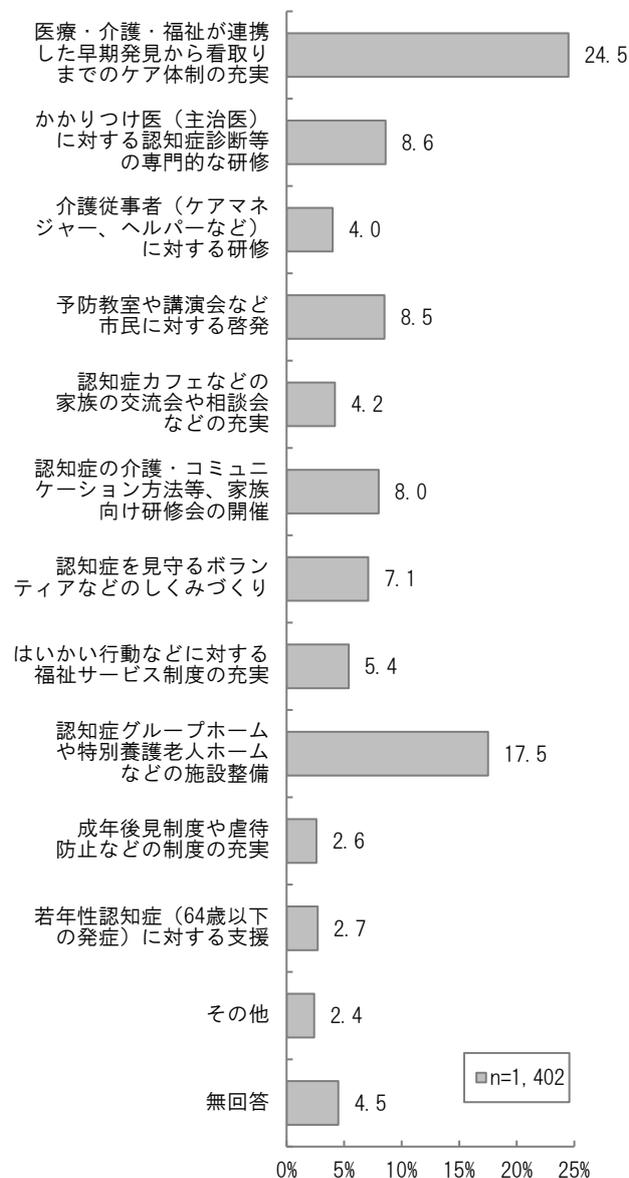
(4) 認知症を支える地域づくりについて

ア 認知症対策を進めていくうえで重点を置くべきこと（3つまで）

高齢者

認知症対策を進めていくうえで重点を置くべきことについては、「医療・介護・福祉が連携した早期発見から看取りまでのケア体制の充実」が24.5%で最も高く、次いで「認知症グループホームや特別養護老人ホームなどの施設整備」（17.5%）、「かかりつけ医（主治医）に対する認知症診断等の専門的な研修」（8.6%）、「予防教室や講演会など市民に対する啓発」（8.5%）、「認知症の介護・コミュニケーション方法等、家族向け研修会の開催」（8.0%）となっています。

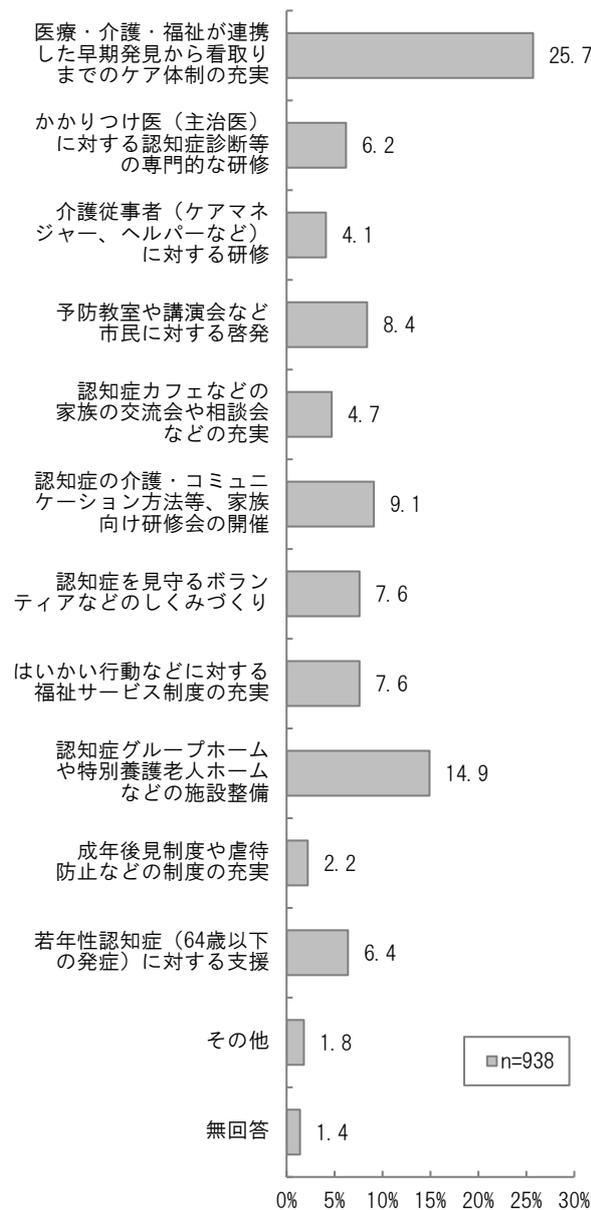
なお、「その他」の回答としては、「介護する人が安らげる場所」などの回答となっています。



若年者

認知症対策を進めていくうえで重点を置くべきことについては、「医療・介護・福祉が連携した早期発見から看取りまでのケア体制の充実」が25.7%で最も高く、次いで「認知症グループホームや特別養護老人ホームなどの施設整備」(14.9%)、「認知症の介護・コミュニケーション方法等、家族向け研修会の開催」(9.1%)、「予防教室や講演会など市民に対する啓発」(8.4%)となっています。

なお、「その他」としては、「認知症についての理解を進めるための啓発活動」「地域コミュニティづくり」などの回答となっています。



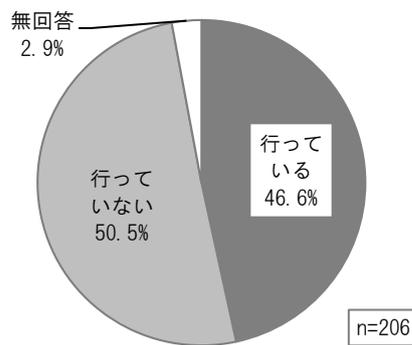
3 医療機関調査／居宅介護事業者調査／地域包括支援センター調査

(1) 認知症の診断・治療について

ア 認知症の診断・治療の実施状況

医療機関

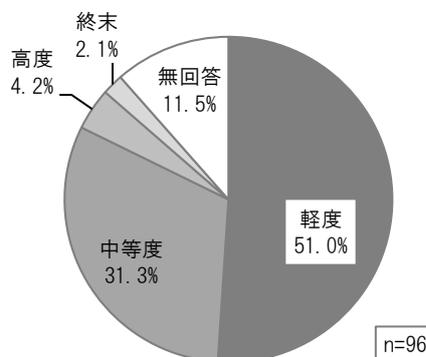
認知症の診断・治療を「行っている」は46.6%で、「行っていない」は（50.5%）となっています。



イ 初診時における平均的な認知症症状の段階（①で「行っている」と回答した医療機関のみ）

医療機関

認知症の診断・治療を受ける患者の、初診時における平均的な認知症症状の段階については、「軽度（物忘れや意欲低下）」が51.0%で最も高く、次いで「中等度（見当識の障害著明）」（31.3%）となっています。

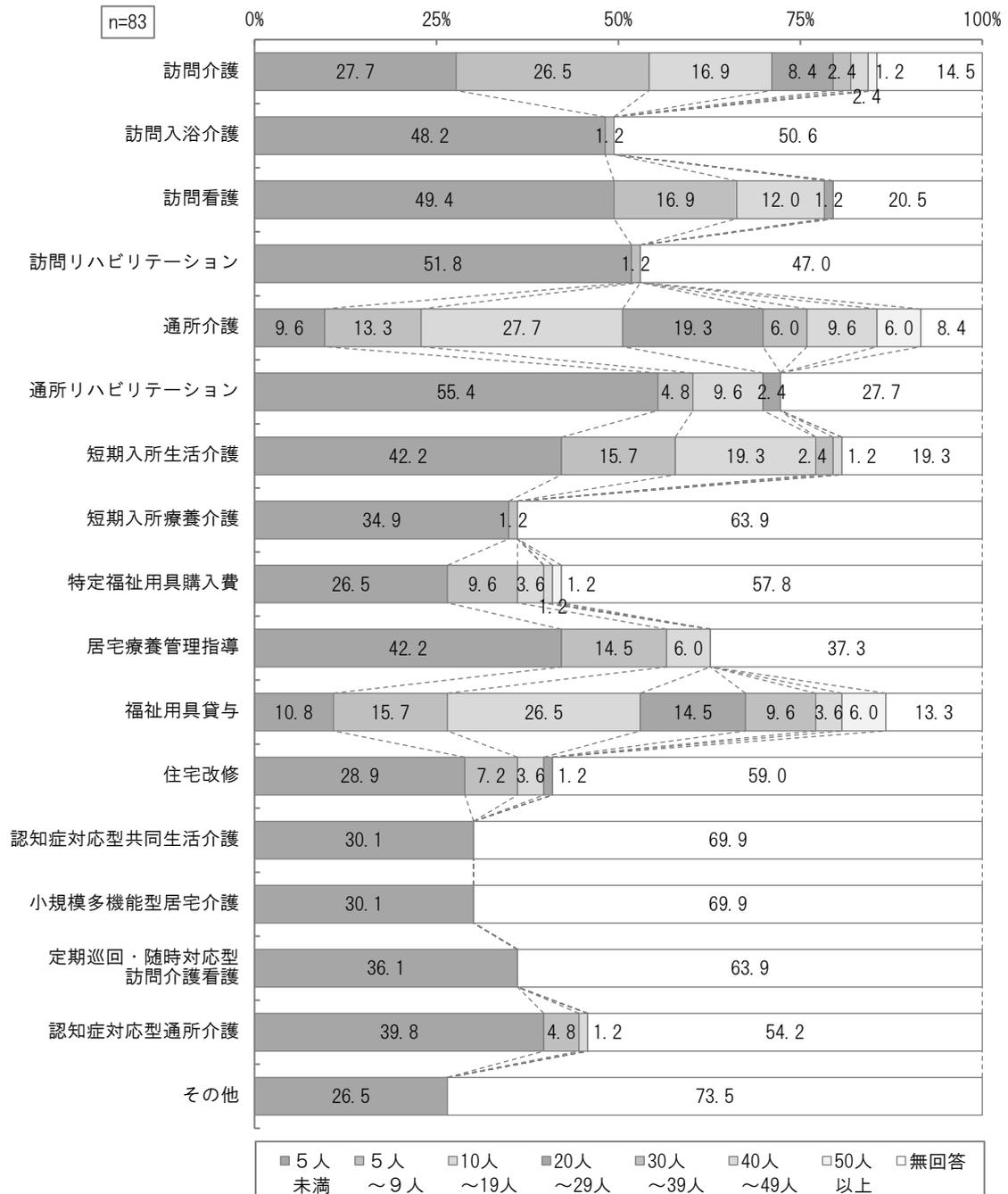


(2) 認知症の方への対応状況について

ア 認知症の方（自立度Ⅱ以上の方）のサービス利用人数

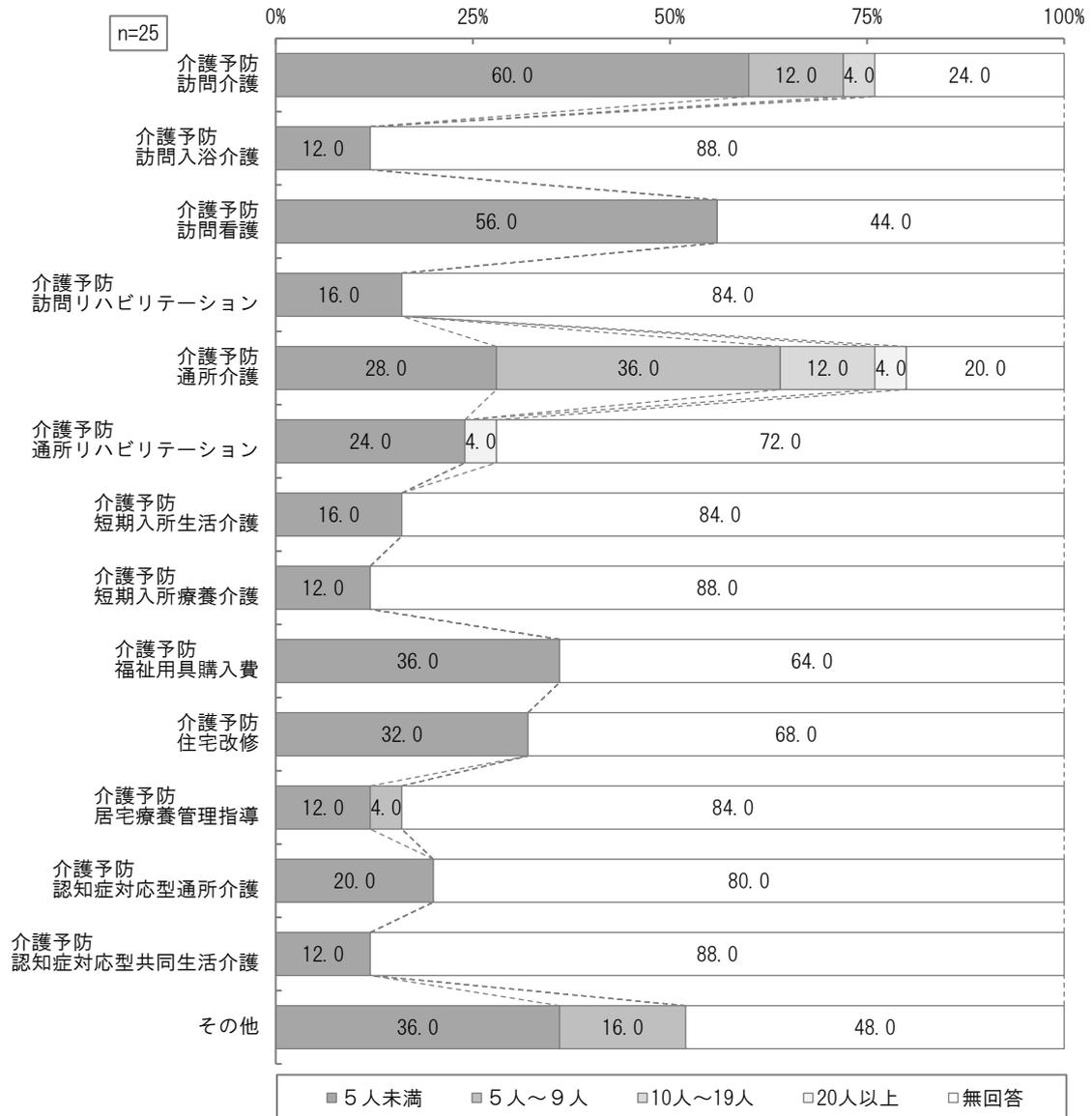
居宅介護事業者

認知症の方（自立度Ⅱ以上の方）のサービス利用人数については、「通所介護」「福祉用具貸与」「訪問介護」「特定福祉用具購入費」では50人以上、「短期入所生活介護」では40～49人、「通所リハビリテーション」「訪問看護」「住宅改修」では20～29人の利用が最大となっており、その他のサービスではおおむね10人未満の利用人数となっています。



地域包括支援センター

認知症の方（自立度Ⅱ以上の方）のサービス利用人数については、「介護予防通所介護」「介護予防通所リハビリテーション」では20人以上の利用が最大となっているほかは、いずれも10人未満の利用が最大となっています。

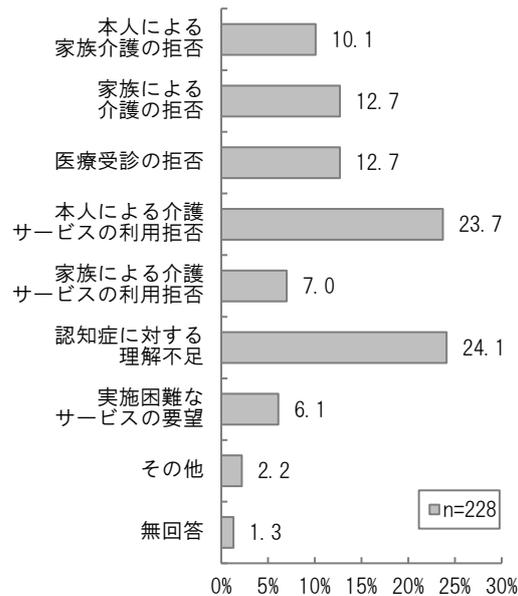


イ 認知症の方の困難事例の内容（複数回答可）

居宅介護事業者

認知症の方の困難事例について、その内容は「認知症に対する理解不足」が24.1%で最も高く、次いで「本人による介護サービスの利用拒否」（23.7%）、「家族による介護の拒否」及び「医療受診の拒否」（12.7%）となっています。

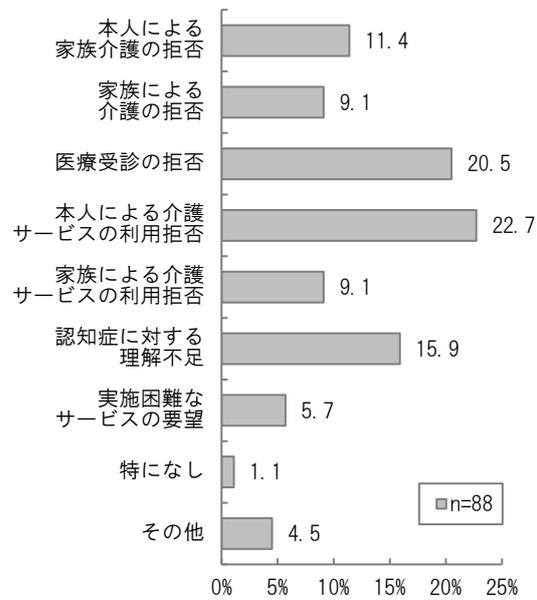
なお「その他」としては、「家族のサービスや制度に対する理解不足」などの回答となっています。



地域包括支援センター

認知症の方の困難事例について、その内容は「本人による介護サービスの利用拒否」が22.7%で最も高く、次いで「医療受診の拒否」(20.5%)、「認知症に対する理解不足」(15.9%)となっています。

なお「その他」としては、「徘徊、虐待(家族からの)、危険運転」「保証人の問題、緊急連絡先などの問題」などの回答となっています。



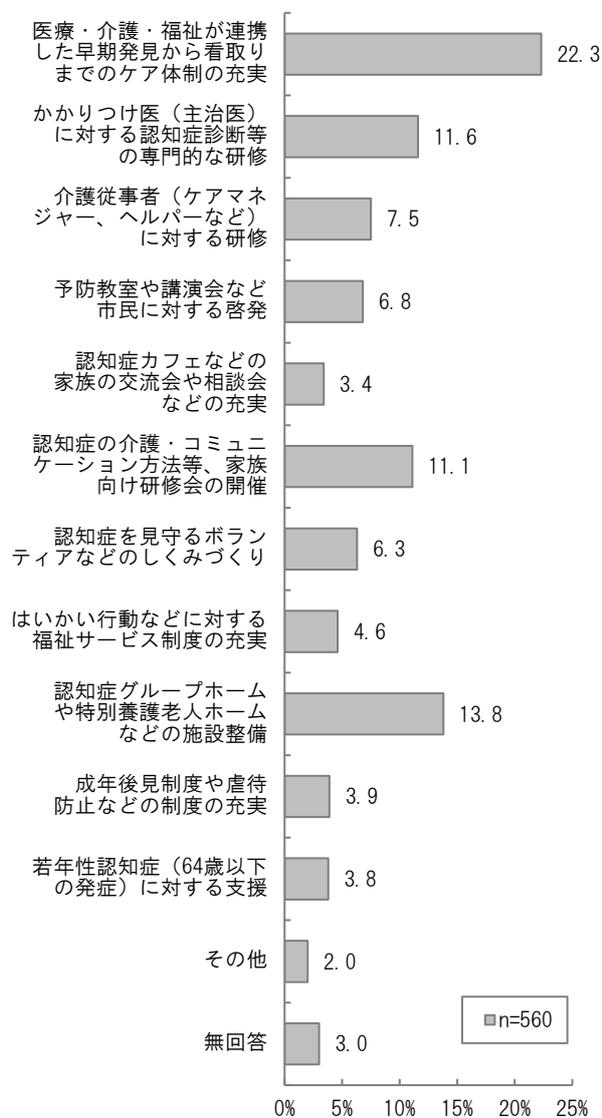
(3) 認知症対策全般について

ア 認知症対策を進めていくうえで重点を置くべきこと

(3つまで)

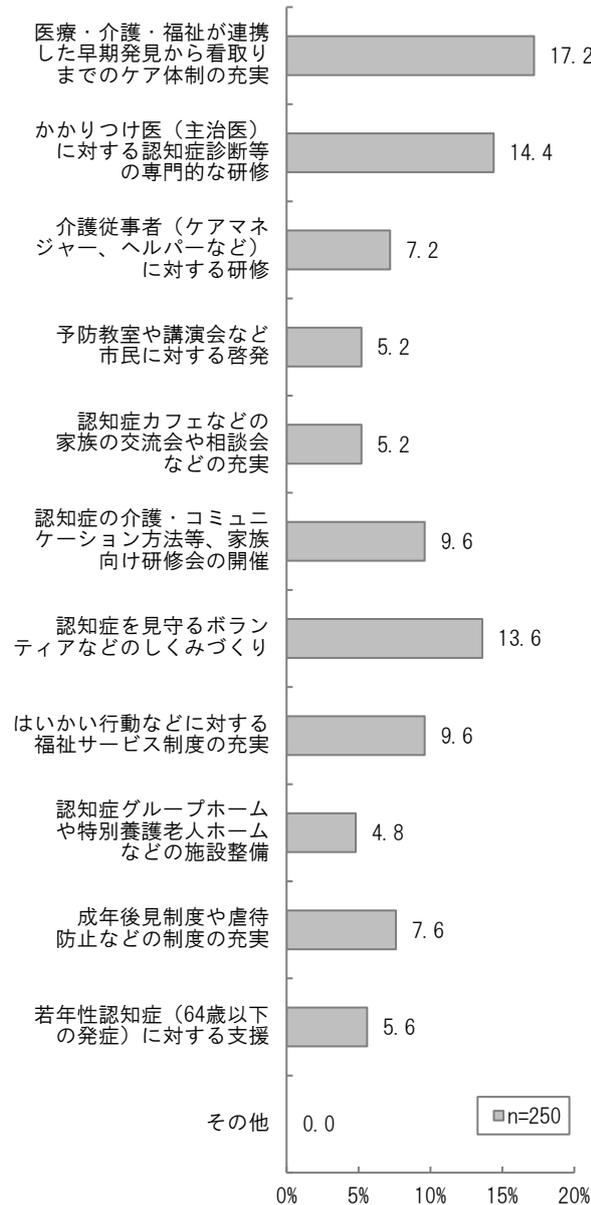
医療機関

認知症対策を進めていくうえで重点を置くべきことについては、「医療・介護・福祉が連携した早期発見から看取りまでのケア体制の充実」が22.3%で最も高く、次いで「認知症グループホームや特別養護老人ホームなどの施設整備」(13.8%)、「かかりつけ医(主治医)に対する認知症診断等の専門的な研修」(11.6%)、「認知症の介護・コミュニケーション方法等、家族向け研修会の開催」(11.1%)となっています。



居宅介護事業者

認知症対策を進めていくうえで重点を置くべきことについては、「医療・介護・福祉が連携した早期発見から看取りまでのケア体制の充実」が17.2%で最も高く、次いで「かかりつけ医（主治医）に対する認知症診断等の専門的な研修」（14.4%）、「認知症を見守るボランティアなどのしくみづくり」（13.6%）となっています。



地域包括支援センター

認知症対策を進めていくうえで重点を置くべきことについては、「医療・介護・福祉が連携した早期発見から看取りまでのケア体制の充実」が25.0%で最も高く、次いで「認知症を見守るボランティアなどのしくみづくり」(20.6%)、「かかりつけ医(主治医)に対する認知症診断等の専門的な研修」(16.2%)となっています。

